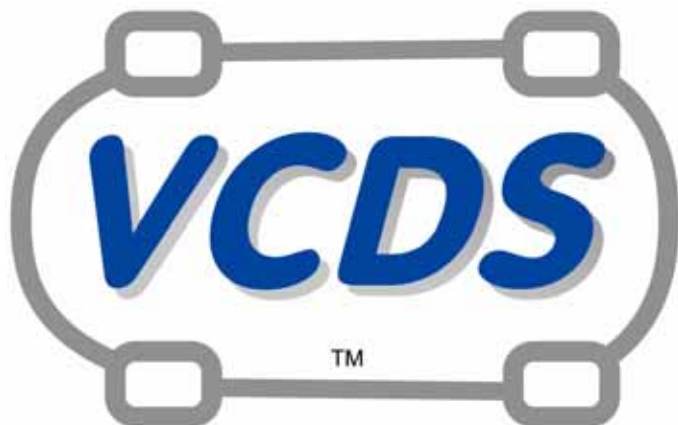


Ross-Tech



User's Manual

**Diagnostic Software for
VW/Audi/SEAT/Skoda**

Release 805

以下を必ずお読みください

著作権：

VCDS の著作権は全て Ross-Tech が保有します。VCDS を第 3 者に転売したり、ソフトに手を加えたりすることは Ross-Tech の書面による許可なしでは禁止されています。

免責事項：

VCDS のダウンロードまたは使用にあたって PC 及び車両に発生し不具合について、Ross-Tech および Second Wind は一切の責任を負いません。VCDS は使用者の責任と判断において購入、使用してください。Ross-Tech は完璧な製品を目指して開発に取り組んでいますが、これは全ての車の全てのシステムでの動作を保障するものではありません。

保証期間：

ケーブルが故障した場合、お買い上げから 1 年間は無料修理とさせていただきます。ただし、正常な使用範囲での故障の場合に限ります。返品際の送料等はご負担くださるようお願いいたします。

無料保証期間を過ぎた場合は、有償修理となります。その際の費用などについては直接お問い合わせください。

エアバッグシステムに関する注意事項（2000 - 2001 Golf / Bora / Beetle）：

上記車種のエアバッグコントローラーには、VCDS でスキャンすると警告灯が点灯したままになってしまうものがあります。パーツナンバー 6Q0 909 605 A のコントロールモジュールです。このパーツナンバーはコントロールモジュール本体を直接確認しないとわかりません。そのため、パーツナンバーが特定できない場合には、エアバッグのコントロールモジュールはスキャンしないようにしてください。

VCDS は誤ってエアバッグシステムをスキャンしないように設定されています。エアバッグシステムをスキャンする前には必ず操作を確認するダイアログボックスが現れ、誤操作を防ぐようになっています。

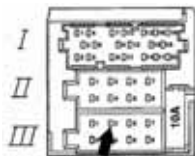
VCDS の動作に関する注意事項：

・ Windows 2000 SP1 (Service Pack 1) と VCDS の相性は良くないようです。もしこの OS を使用している場合、SP4 に変更することをお勧めします。

・ コントロールモジュールにアクセスするときに【Can't Sync Baud Rate】のメッセージが現れたら、Option Screen で Start Baud を 9600 にセットしてください。9600 でも同じメッセージが出たら、4800、1200 を順に試してください。Baud Rate を変更した場合は一度イグニッションを OFF にしてから操作を繰り返してください。

・ 1997 年から VW/Audi はステレオからの情報を ECU で処理できるようなシステムを導入しました。この「K ライン」と呼ばれるシステムに対応した純正ステレオを社外品に交換している場合、コンピューター診断ツールを壊してしまう恐れがあります。

Ross-Tech 製のケーブルにはこのトラブルを防ぐための安全機能が付いています。OBD ポートコネクタ部に付いている LED です。イグニッションを ON にして OBD ポートにケーブルを接続したとき、この LED が赤く点灯したら読み取り作業は中止してください。LED が緑に点灯すれば問題ありません。この問題に対処するためには、ステレオを取り外しハーネスの下図の矢印で示した 3 番の配線をコネクタから外してください。



VCDS

Table of Contents

Getting Started	3-5
Main Screen	6
Select Control Module	7
Open Controller	8-9
Fault Codes	10-11
Measuring Blocks	12-15
Data Logging	16-17
Single Reading	18
Supported Codes	19
Readiness	20
Advanced Identification	21
Advanced Measuring Blocks	22-23
Acceleration Measurement	24
Login	25
7-digit PIN/SKC Dialog	26-27
Basic Settings	28
Output Tests	29-31
Recode / Long Coding	32-36
Adaptation	37
Security Access	38
Auto-Scan	39-42
Control Module Finder	43
Applications	44-48
Options	49-52
About	53

VCDS - Getting Started

Ross-Tech のホームページ(<http://www.ross-tech.com/vcds/download/current.html>)で最新の VCDS ソフトをダウンロードし、PC にインストールします。PC のデスクトップなどにファイルを保存します。ファイルを開き VCDS ソフトを PC の適当な場所 (C:\Program Files など) にインストールします。

シリアルまたは USB のコネクタを PC のポートに差し込みます。

シリアルケーブルを使用する場合は次ページに進んでください。USB ケーブルを使用する場合は、コネクタを差し込むと右のようなメッセージが自動的に現れます。



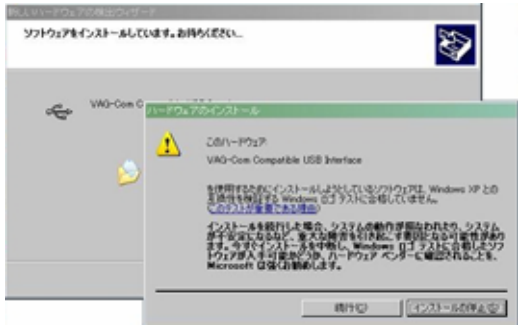
◀ インストールの方法で「一覧または特定の場所からインストールする」にチェックを入れ、**[次へ >]** をクリックします。

「次の場所で最適のドライバを検索する」と「次の場所を含める」にチェックを入れ、**[戻る]** をクリックし VCDS ソフトをインストールしたフォルダを指定します (デフォルトでは C:\Program Files\VCDS です)。**[OK]** をクリックします。



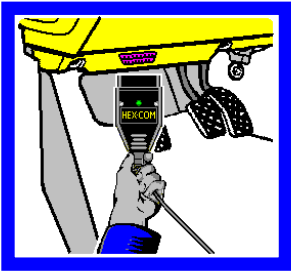
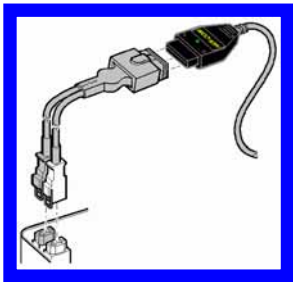
◀ **[次へ >]** をクリックするとインストールが開始されます。

右のようなメッセージが現れ
たら **[続行]** をクリックします。



◀ **[完了]** をクリックして終了です。

ケーブルを OBD ポートに接続します。▶



◀ 2x2 ポートの場合は別売りのアダプターを使って接続します。

イグニッションを ON にします。エンジンは始動させても停止状態でもかまいません。

スタートメニューまたはデスクトップ上のアイコンから VCDS ソフトを起動させます。▶



Main Screen 右下の **[Options]** をクリックし **Options** 画面を開きます。 .



◀ 画面左上の Select COM Port でポートを選択します。シリアルケーブルの場合は通常 COM 1、USB ケーブルは USB を選択し **[Test]** をクリックします。VCDS がケーブルを認識し、下のようなメッセージボックスが現れます。

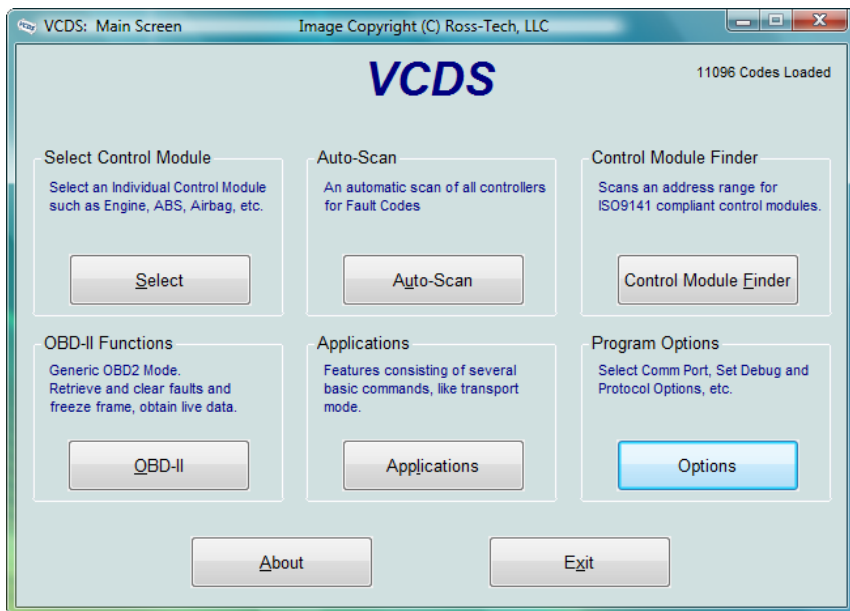


- Interface Status が “Not Found!” の場合、ケーブルの接続状態を確認してください。シリアルケーブルの場合は車側から電源が供給されるので、イグニッションが ON の状態でないとケーブルが認識されません。
- ケーブルの種類が “Type” に表示されます。
- “Version” にはケーブルのファームウェアバージョンが示されます。VCDS によってアップデートを促される場合があります。指示に従ってファームウェアをアップデートしてください。
- K1 または K2 が “OK” にならない場合、OBD ポートがショートまたは接続不良になっています。“CAN” には車が CAN-Bus に対応しているかどうかが表示されます。

異常がなければ **[OK]** をクリックし、**Options** 画面に戻って **[Save]** をクリックします。Main Screen に戻ります。

これで VCDS が使えるようになります。

VCDS - Main Screen



VCDS 起動させると上の画面が現れます。 .

この画面には 8 個のボタンがあります。

[Select]

[Auto-Scan]

[Control Module Finder]

[OBD-II]

[Applications]

[Options]

[About]

それぞれのボタンについてはマニュアル内で個別に説明します。 .

[Exit]をクリックすると VCDS は終了されます。

VCDS - Select Control Module



車に搭載されている様々なコンピューターは“Control Modules(コントロールモジュール)”又は“Controllers(コントローラー)”と呼ばれます。この画面からはアクセスしたいコントロールモジュールを選択することができます。例えば、**[01 - Engine]**をクリックするとエンジンコントローラー(ECU)にアクセスできます。VCDS にはディーラー診断ツール VAS-5051 と VAS-5052 が現在サポートしている全てのコントローラーのアドレスボタンがあります。

Module Tabs (モジュール タブ)

画面上のタブをクリックすると以下のカテゴリ別コントローラーグループ画面が表示されます。**Common (一般)**、**Drivetrain (ドライブトレイン)**、**Chassis (シャーシ)**、**Comfort/Conv.(コンフォート/コンビニエンス)**、**Electronics 1 (エレクトロニクス 1)**、**Electronics 2 (エレクトロニクス 2)**

それぞれのコントローラーには、**[01-Engine]**のように番号が付けられています。これはディーラー診断ツールのマニュアルに記載されている番号に対応しています。

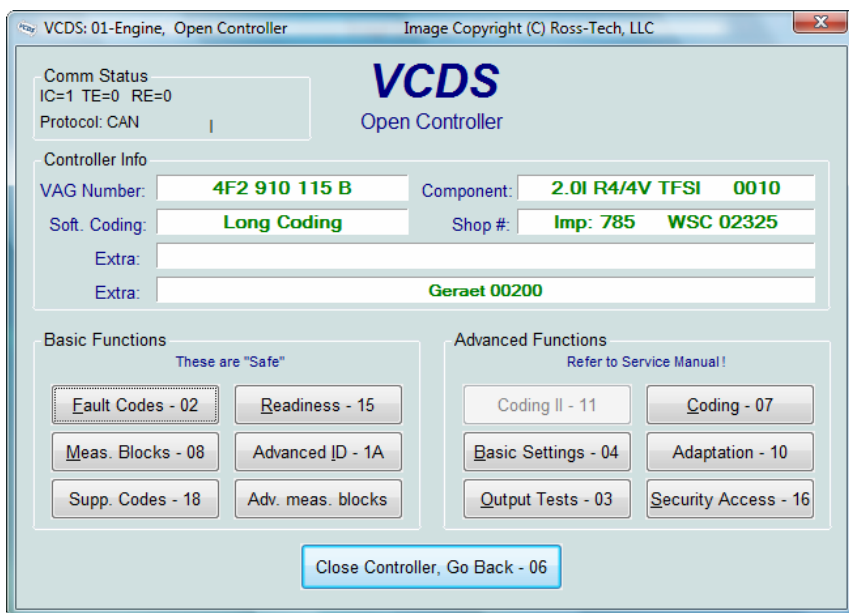
Direct Entry (ディレクトエントリー)

左下“Direct Entry”に直接コントローラーのアドレスを入力してコントローラーにアクセスすることもできます。ボックス内にアドレスを入力し**[Go!]**をクリックしてください。

Main Screen に戻るには**[Go Back]** をクリックします。

注意: 全ての車にこの画面で表示されるコントローラーが備わっているわけではありません。

VCDS - Open Controller



VCDS がコントロールモジュールにアクセスするとこのような画面になります。

Comm Status (通信状態)

左上の"Comm Status"には VCDS とコントロールモジュールとの通信状態が表示されます。

- **IC=** 通信セッションが初期化された回数を表示します。1 を超える場合は通信が安定していないことを示します。
- **TE=** 送信エラーの回数を表示します。0 を超える場合は通信が安定していないことを示します。
- **RE=** 受信エラーの回数を表示します。0 を超える場合は通信が安定していないことを示します。
- **Protocol (プロトコル)** はコントロールモジュールの通信プロトコルを表示します。
- 回転するカーソルは通信が行われていることを表します。

Controller Info (コントローラー情報)

コントローラーとの通信が正常に行われると、コントロールモジュールの"Identification"データ(認識データ)が表示されます。

- **VAG Number** はコントローラーの VW/Audi パーツナンバーです。
- **Component** にはコントローラーに関するパーツナンバー以外の認識データやコントローラーのファームウェアのバージョンナンバーが含まれています。
- **Soft. Coding** はコントローラーのソフトウェアコーディングナンバーです。比較的古いコントローラーにはコーディングができないものもあり、代わりに Bosch のパーツナンバーやその他の情報が表示されることもあります。
- **Shop #**は最後にコーディングやアダプテーションを行った診断ツールに登録されている WorkShopCode(ワークショップコード)が表示されます。
- **Extra** には VIN やイモビライザーの情報、従属するコントローラーのパーツナンバーなどが表示されます。

Basic Functions (ベーシックファンクション)

これらの「安全」な機能はコントロールモジュールの様々なデータを読み取るためのものです。

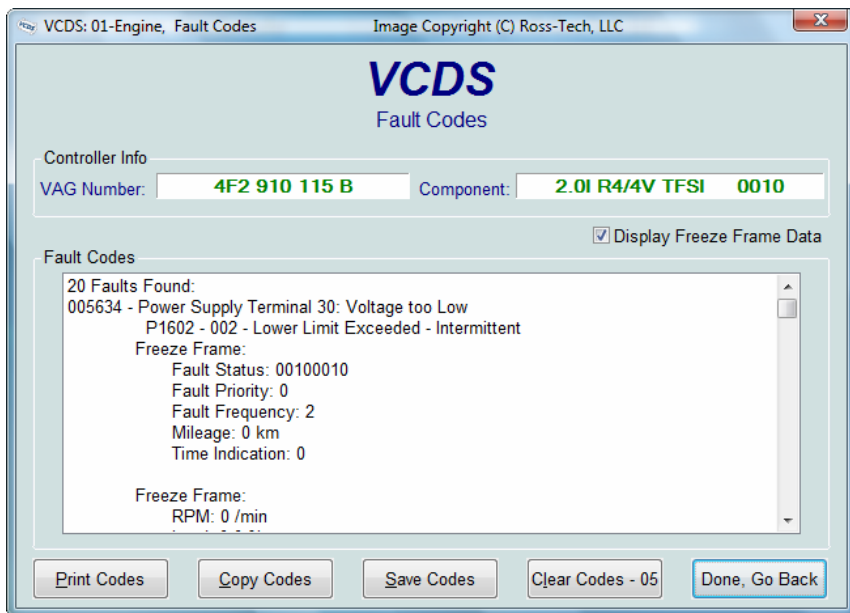
Advanced Functions (アドバンストファンクション)

これらの機能を使うとコントロールモジュールの様々なプログラムに変更を加えることができます。これらの機能を使用する場合には必ずリペアマニュアル等を参照してください。不適切な操作は車を走行不能にしたり、部品の損傷を引き起こす原因となります。

いくつかのボタンがクリック不可の状態になっていることがありますが、各コントローラーがサポートする機能のボタンのみ使用可能になります。それぞれの機能については各項目で詳細を説明します。

Open Controller 画面を閉じて **Select Control Module** 画面に戻るときは **[Close Controller, Go Back - 06]** をクリックしてください。

VCDS - Fault Codes (VAG 1551/1552 functions 02 and 05)



この画面では DTC (“Diagnostic Trouble Codes”)、通称フォルトコードを見ることができます。VCDS ではフォルトコードだけでなく、その内容を表す記述も併せて表示します。

画面上の欄には VAG パーツナンバーとコンポーネントナンバーが表示されます。

5桁または7桁の数字は VAG のフォルトコードです。ディーラーのリペアマニュアルで詳細を検索することができます。括弧内のアルファベットと数字の記号は DIN パーツナンバーです。その右側に簡単な不具合の説明が表示されます。2行目表示されているのは Pコードと呼ばれる OBD プロトコルによる認識コードです。

Display Freeze Frame Data チェックボックスはフォルトコードのフリーズフレームデータを KWP-2000 または CAN プロトコルによって付加することができます。

注：現在のところフリーズフレームデータを呼び出せるのはごく一部のモデルだけです。フリーズフレームをサポートしていない車の場合、このチェックボックスは表示されません。

[Print Codes]でフォルトコードの結果を印刷することができます。PCがプリンターにつながっていない場合は、あらかじめプリンターの設定を「オフライン作業」にしており、PCをプリンターに接続してから「オンライン作業」にして印刷を実行してください。

[Copy Codes]でフォルトコードをウィンドウズのクリップボードにコピーし、それをワードなど他のアプリケーションソフトに貼り付けることができます。

[Save Codes]でフォルトコードの結果をPCのC:\ross-tech\vcds\Log\ディレクトリーに保存することができます。

[Clear Codes - 05]でフォルトコードをコントロールモジュールのメモリーから消去することができます。これはフォルトコードの原因を解決するものではないので、かならず原因となる不具合を直してからフォルトコードを消去するようにしてください。

[Done, Go Back]で **Control Module** 画面に戻ります。

VCDS - Measuring Blocks (VAG 1551/1552 function 08)

The screenshot shows the VCDS Measuring Blocks interface with the following data:

Group	Function	Value
002	Engine Speed	6400 /min
002	Engine Load	100.0 %
002	Injection Timing	16.4 ms
002	Intake Air Mass	166.53 g/s
106	Fuel Rail Pressure	106.4 bar
106	Electrical Fuel Pump 1	11.0 %
106	Electrical Fuel Pump 2	
106	Time	655.35 s
115	Engine Speed	6400 /min
115	Engine Load	100.0 %
115	Boost Pressure (specified)	1950.0 mbar
115	Boost Pressure (actual)	2050.0 mbar

Buttons visible: Turbo!, Up, Dn, Go!, Save, Acceleration, Switch To Basic Settings, Done, Go Back, VC-Scope, Log.

この画面でコントロールモジュールからあらゆるデータをリアルタイムで読み取ることができます。

[Up]と**[Dn]**で000番から255番のコントロールモジュールを選択します。"ERROR; Group xxx Not Available"が表示されることがありますが、全ての番号に対応するコントロールモジュールが存在するわけではありません。抜けている番号もあります。また Group ボックスにグループ番号を入力してコントロールモジュールを選択することもできます。メジャリングブロックで表示されるデータはコントロールモジュールや年式、車種によって異なります。ディーラーのリペアマニュアルに記載されているグループもありますが、リペアマニュアルに載っていないグループも数多くあります。メジャリングブロックが他に悪影響を与える可能性はないので、自分でいろいろなグループのデータを探ってみてください。

[Log]でこの画面で表示させたデータを記録することができます。詳しくは Data Logging(データロギング)の説明を御覧ください。

[Switch to Basic Settings]で現在表示中のデータの Basic Settings 画面に移動することができます。ただし、この機能は参照できる適切なサービスマニュアルがない限りは使用しないようにしてください。そのためこのボタンは通常はグレーで表示されています。

VCDS ではコントロールモジュールの「生の」データを、 \quad や km/h などのわかりやすい単位に変換して表示することができます。

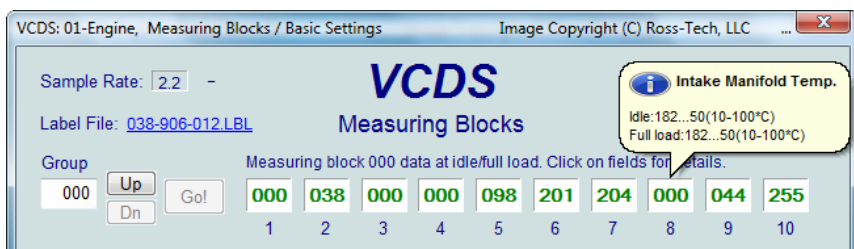
注：グループ 000 番や他のいくつかのグループは 4 つではなく、例外的に 10 個のデータを処理しています。この場合、データに単位をつけて表示することはできません。また、これらは画面の一番上の一列目にだけ表示することができます。

VCDS はそれぞれのデータがどういう意味を持つかについてできるだけわかりやすい形で表示できるように作られています。コントロールモジュールから送られる生のデータには必要な情報が含まれていない場合もあります。例えば、あるデータが Temperature(温度)であるということはわかって、それが冷却水の温度なのか、油温なのか、吸気温なのか表示することができないことがあります。

この問題を解消するために、VCDS は Label Files(ラベルファイル)を利用しています。特定のコントロールモジュールのラベルファイルが存在しない場合、VCDS はそのデータが何を意味するのかできる限りの推測をするようになっています。

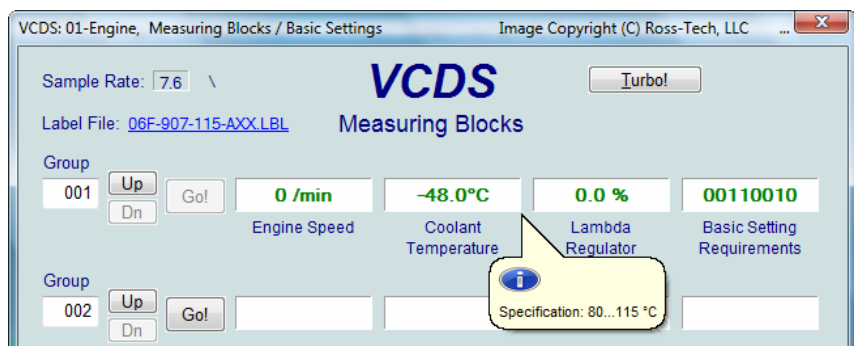
Label Files (ラベルファイル)：様々なコントローラーに対応するデータが PC 内の VCDS ファイルの中に製品と一緒にダウンロードされ保存されています。表示させているコントローラーに対応するラベルファイルが存在する場合は、画面左上にラベルファイル名が表示されます。もし該当するファイルが存在しなければ、None (なし)が表示されます。VCDS はまず、PC 内のラベルファイルの中から TEST-xx.LBL というファイル (xx は 01:エンジン、03:ABS、15:エアバッグなどのような、コントローラーアドレスを指す) を探します。該当するファイルが見つければ、それを読み込みます。それが見つからない場合には、xxx-xxx-xxx-xx.LBL というファイル (xxx-xxx-xxx-xx は 06A-906-018-AG のようなコントローラーのパーツナンバー) を探します。このファイルが見つからなければ、最後のアルファベット 2 文字以外の xxx-xxx-xxx.LBL というファイルを探します。どのファイルも見つからない場合には VCDS は「推測」によってできる限りわかりやすい説明を表示させます。

グループ 000 番は特別な表示方法になっています。この場合、データの表示領域をクリックするとラベルファイルは「ふきだし」の形で表示されます。



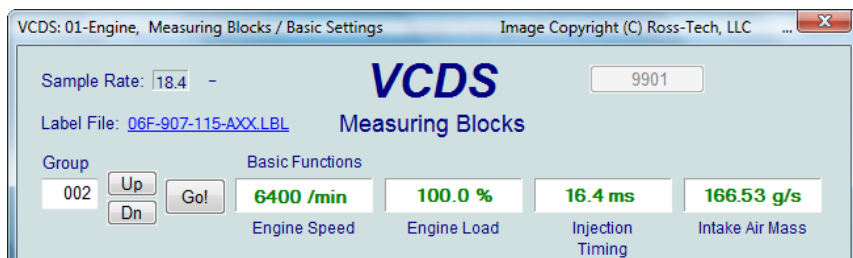
データの表示領域をクリックすると、「ふきだし」の形でデータの付加情報が表示されま

す。



Sample Rate (サンプリングレート): 例えば 97 年式 VR6 の ECU からは 1 秒間に 4.0 個のサンプルを取り出すことができます (1 つのグループを読み取っている場合)。この ECU は 9600 baud (baud = 1 秒間に何回復調ができるかを表す単位) の通信速度ですが、もっと新しい ECU は 1040 baud 以上です。同時にいくつものグループを表示させる場合は通信速度は低くなり、2 つのグループの場合は 2.0 個、3 つのグループの場合は 1.3 個程度になります。サンプリングレートは他の条件 (コントローラーの種類、PC の性能など) によっても変わります。 .

KWP-2000 と CAN を使用している ECU の場合は **[Turbo]** ボタンがこの画面の右上に表示されます。このボタンをクリックするとサンプリングレートがアップします。例えば、1 つのグループを表示しているときのトゥアレグでは 1 秒間に 30 個となります。一度 **[Turbo]** ボタンをクリックするとこの画面を終了するまでその状態が保たれます。



[VC-Scope] をクリックすると、プラグインソフトの VC-Scope が起動します。詳しくは VC-Scope の説明を御覧ください。

車速 (km/h) を含むグループを表示しているとき、**[Acceleration]** をクリックすると Acceleration Measurement (加速測定) ウィンドウが開きます。開始速度と終了速度、距離を入力することができます。測定したい数値を入力し、**[Start]** をクリックして測定を開始します。**[Save]** をクリックして結果を PC の C:\Program Files\VCDS\Logs ディレクトリーに保存することができます。

[Done, Go Back] をクリックすると Open Controller 画面に戻ります。

VCDS - Data Logging

Measuring Blocks 画面のデータは .CSV ファイル形式で記録することができます。記録したデータはエクセルなどを使って編集することができます。

The screenshot shows the VCDS Measuring Blocks interface. At the top, it displays 'VCDS: 01-Engine, Measuring Blocks / Basic Settings' and 'Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC'. The main title is 'VCDS Measuring Blocks' with a sample rate of 6.1 and a value of 9901. Below this, there are three measurement groups, each with a 'Go!' button and a 'B. Setting' button. The first group (002) shows Engine Speed (6400 /min), Engine Load (100.0 %), Injection Timing (16.4 ms), and Intake Air Mass (166.53 g/s). The second group (106) shows Fuel Rail Pressure (106.4 bar), Electrical Fuel Pump 1 (11.0 %), Electrical Fuel Pump 2, and Time (655.35 s). The third group (115) shows Engine Speed (6400 /min), Engine Load (100.0 %), Boost Pressure (specified) (1950.0 mbar), and Boost Pressure (actual) (2050.0 mbar). At the bottom, there is a 'File Name' field containing 'Logs\LOG-01-002-106-115.CSV', a 'Browse' button, a '0' button, and a 'Marker' button. There are also 'Export RPM only' and 'Start' buttons.

[Start]、**[Stop]**、**[Resume]**は全て同じボタンで操作します。**[Start]** で記録を開始します。

This screenshot shows the bottom control area of the VCDS Measuring Blocks interface. The 'File Name' field contains 'Logs\LOG-01-001-002-003.CSV'. The 'B. Setting' button is highlighted. The 'Export RPM only' checkbox is checked. The 'Stop' button is highlighted in blue, indicating it is the active function. Other buttons include 'Done, Close' and 'Marker'. A '0' button is also present.

[Stop]で記録を終了します。

This screenshot shows the bottom control area of the VCDS Measuring Blocks interface. The 'File Name' field contains 'Logs\LOG-01-001-002-003.CSV'. The 'B. Setting' button is highlighted. The 'Export RPM only' checkbox is checked. The 'Resume' button is highlighted in blue, indicating it is the active function. Other buttons include 'Done, Close' and 'Marker'. A '0' button is also present.

[Resume]で記録を再開します。

Export RPM Only にチェックを入れると左端に表示されているエンジン回転数のみを記録することができます。

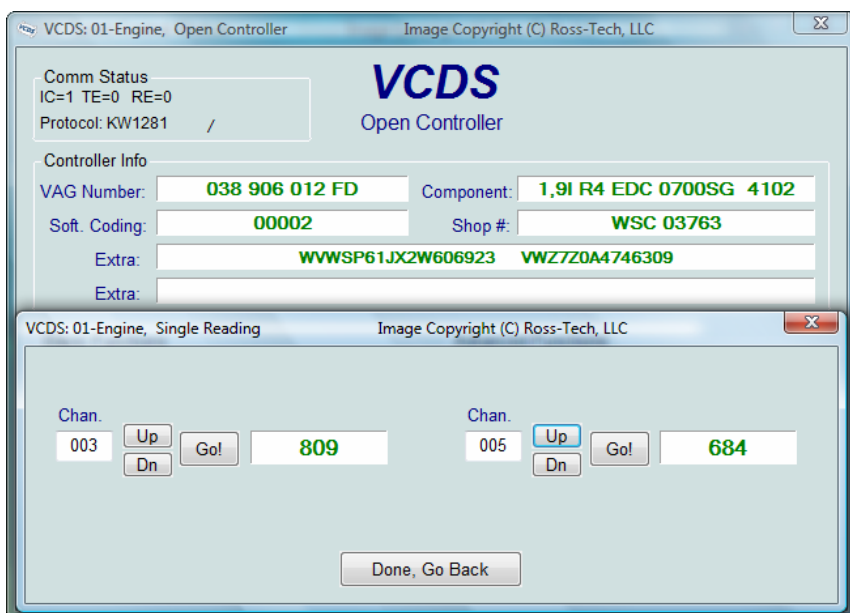
[Marker] をクリックするとファイル上に 1 から順番に数字が記録されます。後でデータを処理するときの目印として使用できます。

[Browse] をクリックすると記録ファイルの保存先を参照し、変更できます。デフォルトの設定では、記録は VCDS ディレクトリ中の LOGS フォルダ内に保存されます。

デフォルトの設定では記録したファイルの名前は「コントローラーのパーツナンバー + グループの番号」となっています。この名前は変更可能です。

LOG ファイルを **[VC-Scope]** で見ることもできます。詳しくは **VC-Scope** の説明を御覧ください。

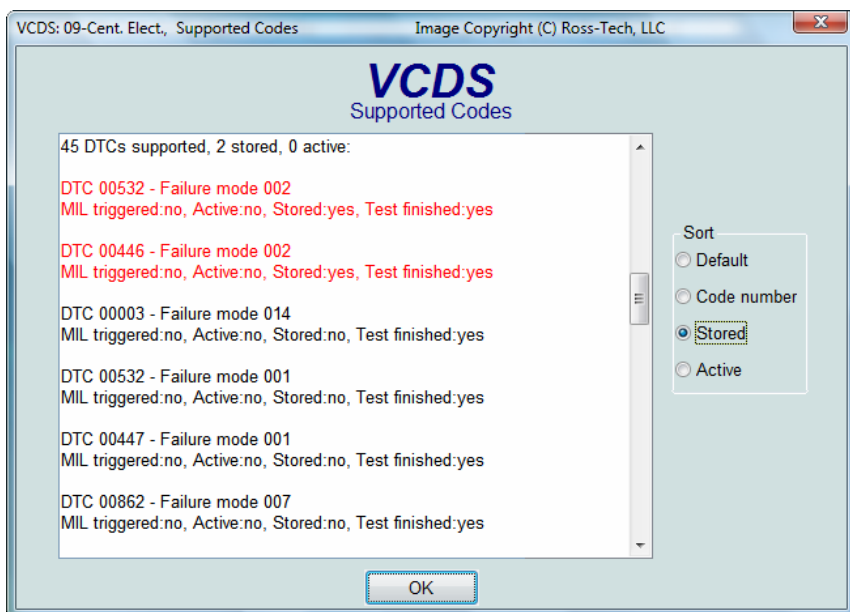
VCDS - Single Reading (VAG 1551/1552 function 09)



この画面はこの機能をサポートしているコントロールモジュールのリアルタイムデータを読み取ることができます。ただし、この画面では表示されるデータは数字のみとなります。単位その他の情報を表示することはできません。

Open Controller 画面に戻るには[Done, Go Back]をクリックします。

VCDS – Supported Codes

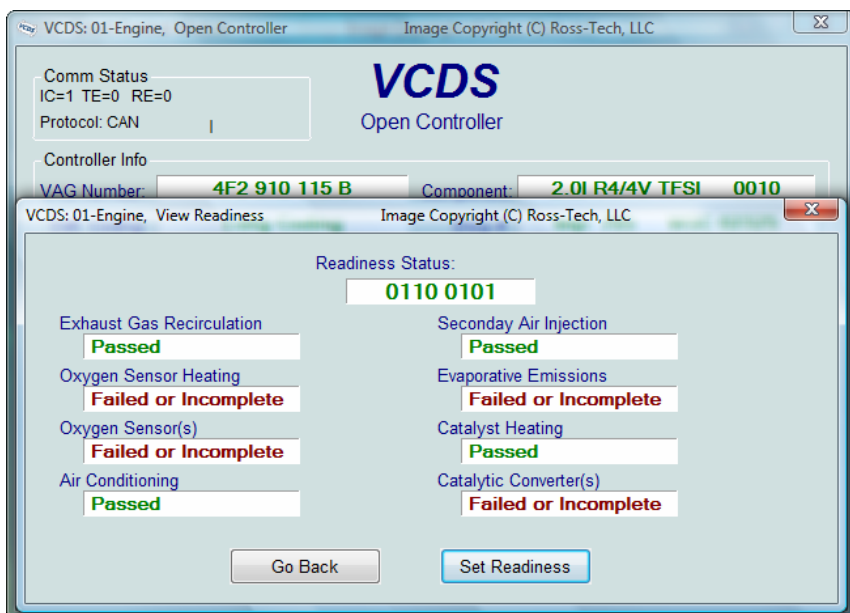


Supported Codes (サポーテッドコード) この機能が備わった最新のコントロールモジュールでは、フォルトコードとその状態(Failure Mode)を併せて表示することができます。

画面右側ラジオボタンで並べ替え(ソート)ができます。

[OK]で **Open Controller** 画面に戻ります。

VCDS - View Readiness (VAG 1551/1552 function 15)



Readiness Code (レディネスコード) は 8 ビットコードで、それぞれの数字が OBD- モデルの排気ガスモニターシステムの項目に割りふられています。全ての数字が“0”の場合は全てのシステムがコントローラーによってチェックされオンボードテストで“Passed (問題なし)”の結果が出ていることを示します。

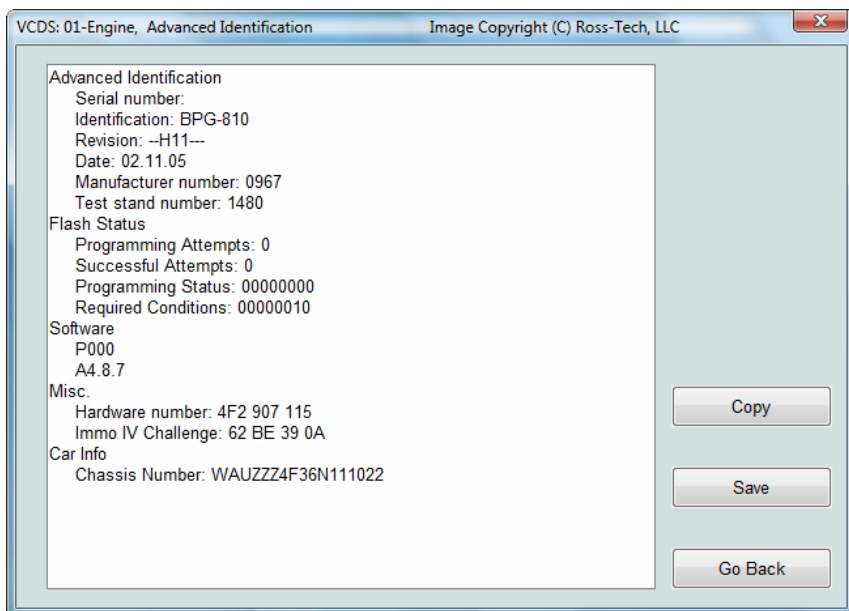
フォルトコードを消去したり ECU の電源を切るたびに、このレディネスコードは“Failed (問題あり)”にリセットされます。8 項目が全ての車に備わっているわけではありません。その場合車に備わっていない項目は自動的に“Passed”が表示されるようになっています。

上はフォルトコードを消去した直後の画面です。この画面から EGR、Catalyst Heating、Air Conditioning のモニター機能はこの車両には備わっていないことがわかります。

全ての項目のテストが完了する時間には幅があります。全ての項目が“Passed”になるには様々な運転状況を含む数日間を要することもあります。

Open Controller 画面に戻るには **[Go Back]** をクリックしてください。

VCDS - Advanced Identification (VAS 5051/5052 "Identification Services")



この機能は VAS-5051/5051 の"Identification Services"に相当します

Advanced ID (アドバンスド ID) 機能は KWP-2000 と CAN プロトコルだけがサポートしています。

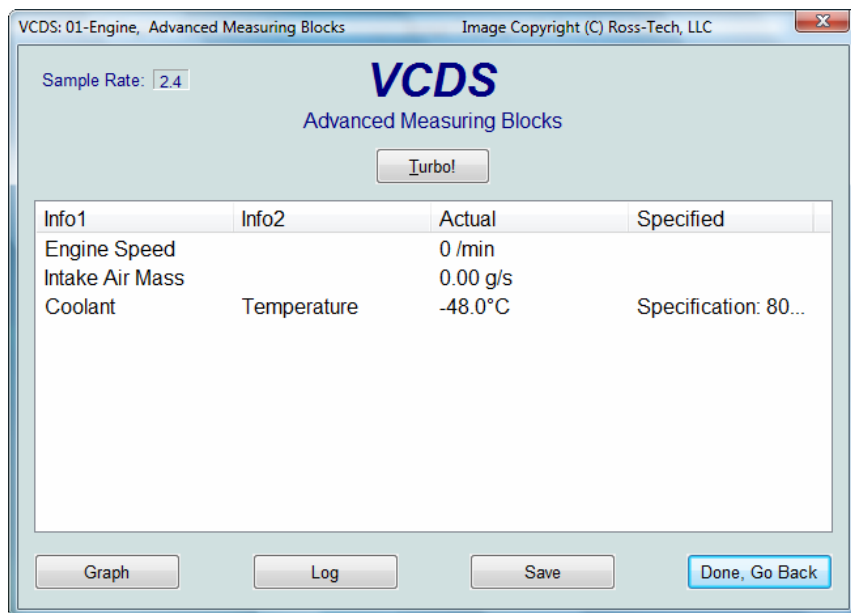
注意：この画面で表示できるデータの数はコントロールモジュールによって異なります。赤字の"**N/A**"はそのコントロールモジュールでは表示できないことを表します。例えば Chassis Number (シャーシナンバー) などは、その情報がコントローラーに記憶されていなければ表示することはできません。

[Copy]で表示されたデータをウィンドウズのクリップボードにコピーすることができます。

[Save]で PC 内の VCDS ディレクトリにテキスト形式で保存することができます。

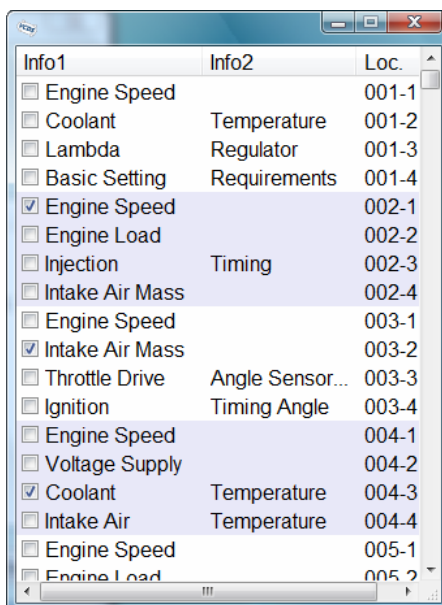
Open Controller 画面に戻るには**[Go Back]**をクリックしてください。

VCDS - Advanced Measuring Blocks

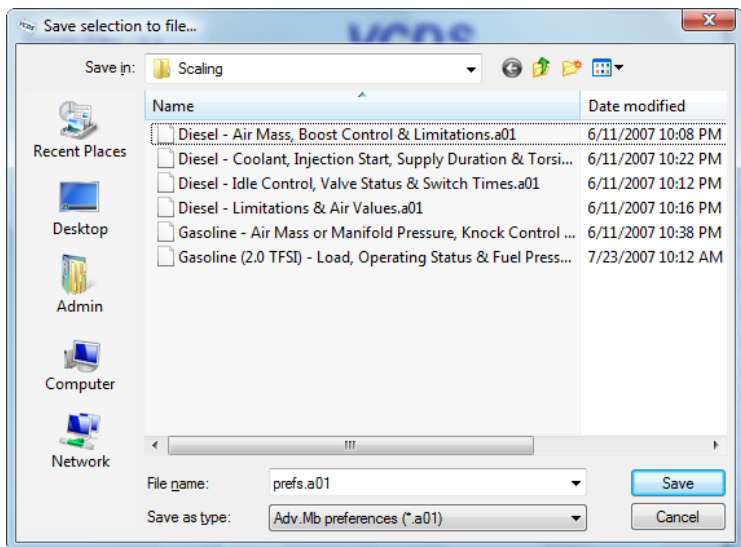


これは Measuring Blocks (メジャリングブロック)の機能を拡大したもので、12 の異なるグループから 12 個までのデータを同時に表示できます。この機能はアクセスしているコントロールモジュールのラベルファイルが存在するときのみ使用可能です。

Advanced Measuring Blocks には 2 つの画面があります。上の画面の他に、右のような画面が表示されます。これは Item Selection Window (アイテム選択ウィンドウ) で、表示したい項目にチェックを入れ、非表示にしたい項目はチェックを外します。



VCDS は Advanced Measuring Blocks で一度表示させた項目のリストを保存することができます。任意に選んだ複数の項目リストを保存し、同じ項目をすばやく表示できます。リストを保存するには、Item Selection Window の左上にある VCDS ログをクリックし、“Save selection to file”を選択します。



必要に応じて保存するファイルに名前を付けることができます。保存されたリストを開くときは、Item Selection Window の左上にある VCDS ログをクリックし、“Load selection file” を選択します。開きたいファイルを選択し、**[Open]** をクリックします。

[Turbo]でサンプリングレートを高めることができます。

[Graph]で VC-Scope を起動させることができます。

[Log]でデータを記録することができます。

[Done, Go Back]をクリックして **Open Controller** 画面に戻ることができます。

VCDS – Acceleration Measurement

VCDS: 01-Engine, Acceleration measurement Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC

VCDS

Acceleration Measurement

Metric units

52 km/h 1206 m

0 to 100 km/h: 8.9 +- 0.12s

400m: 16.4 +- 0.12s, @145 km/h

90 to 120 km/h: 3.7 +- 0.12s

200 meters: 10.9 +- 0.12s, @114 km/h

US Units

32 mph 3957 ft

0 to 60 mph: 8.5 +- 0.16s

1/4 mile: 16.4 +- 0.12s, @90 mph

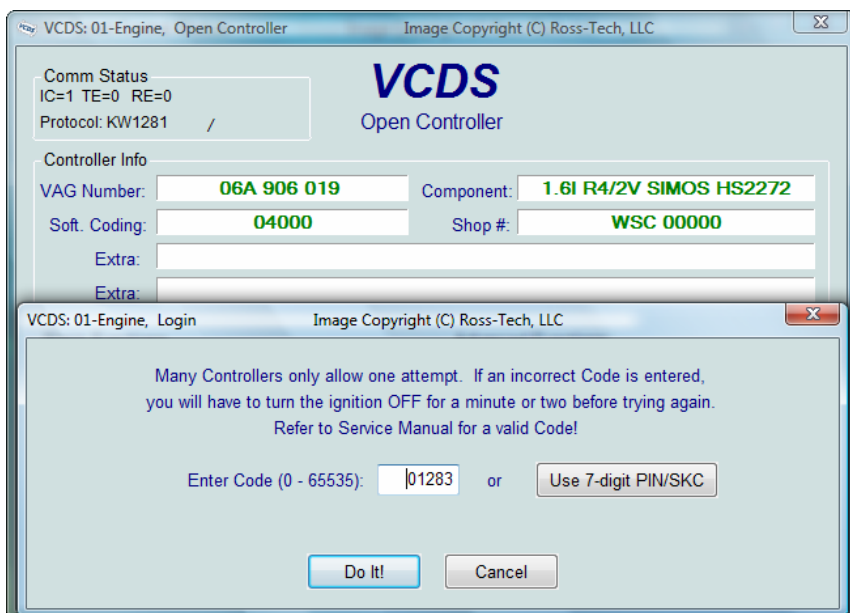
60 to 90 mph: 7.5 +- 0.16s

660 feet: 10.9 +- 0.12s, @71 mph

Start Done, Go Back Save

車速(km/h)を含むグループを表示しているとき、**[Acceleration]**をクリックするとAcceleration Measurement (加速測定) ウィンドウが開きます。開始速度と終了速度、距離を入力することができます。測定したい数値を入力し、**[Start]**をクリックして測定を開始します。**[Save]**をクリックして結果をPCのC:\Program Files\VCDS\Logsディレクトリに保存することができます。

VCDS - Login (VAG 1551/1552 function 11)



Login (ログイン)機能は Recode (コーディング)や Adaptation value (アダプテーション値) を変更する際に必要になる場合があります。このログインコードはリペアマニュアルで調べることができます。

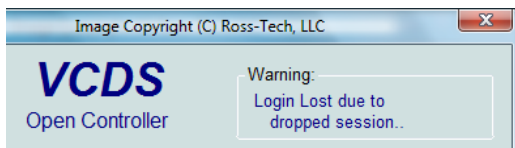
イモビライザーの場合は **[Use 7-digit PIN/SKC]** を選択し 7桁の Secret Key Code (シークレットキーコード)を入力します。詳しくは該当の項目を参照してください。

「ふきだし」 : VCDS はラベルファイルに情報が含まれている場合に、ログインの「一覧」を表示することができます。カーソルを Enter Login Code のボックス上に乗せると「ふきだし」の形でこの情報が表示されます。

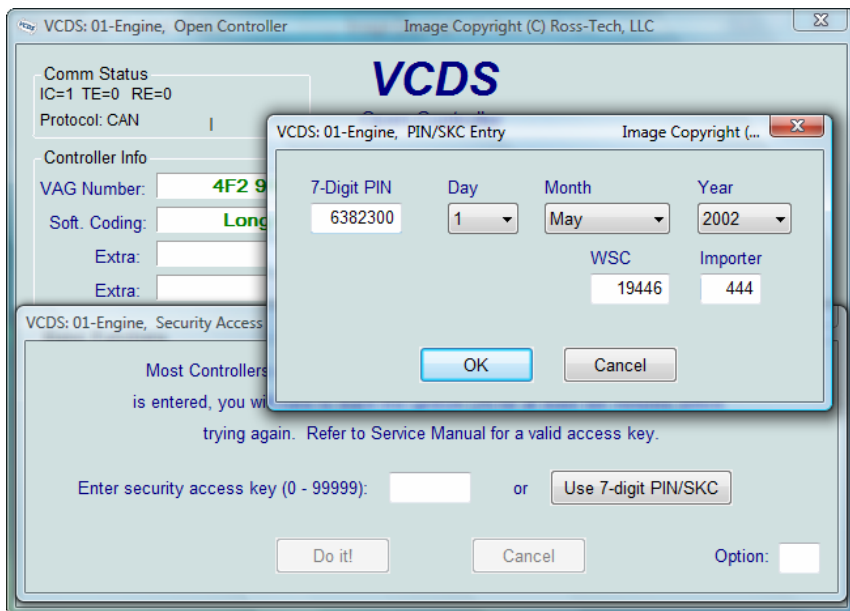
[Do It!] でログインを実行し **Select Function** 画面に戻ります。

[Cancel] でログインをキャンセルし **Select Function** 画面に戻ります。

コントロールモジュールとの通信が中断し画面右上に右のようなメッセージが表示された場合、一度前画面に戻ってもう一度ログイン手続きを行ってください。▶



VCDS - 7-digit PIN/SKC



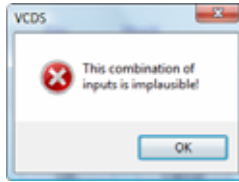
7-digit PIN/SKC (7桁シークレットキーコード) ダイアログはキーの登録、イモビライザーのアダプテーションで使用します。

以下の情報を入力する必要があります。

- **イモビライザーの ID 番号に対応したディーラーが作成した 7-digit PIN/SKC**
- **SKC が作成された日付**
- **SKC を作成したディーラーの Workshop Code (ワークショップコード)**
- **SKC を作成したディーラーの Importer Number (インポーターナンバー)**

7桁シークレットキーコードはこれら全ての情報が揃っていなければ使用できません。

全ての情報を入力したら**[OK]**をクリックします。入力した情報に誤りがある場合は下のよう
なメッセージが現れます。



SKCの入力が正しく行われると前の画面に戻ります。
ログインまたはアダプテーション値には"XXXXX"の表示になります。

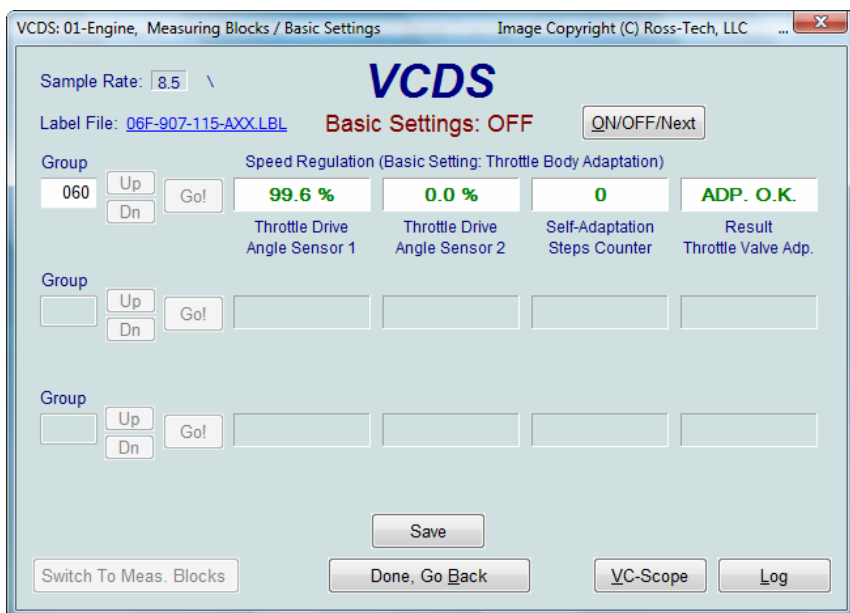
SKC について : (SKC) シークレットキーコードはディーラーから手に入れるしか方法
はありません。2002年以前は4桁のSKCが使われる場合がありました。2002年以降
はWIN2という新しいシステムを採用し、7桁のSKCに変わりました。現在は GEKO
という最新のシステムを採用するディーラーが多くなっています。このシステムでは
オンラインでつながれた診断ツールを車に接続するだけでSKCを処理できます。
VCDSはこのGEKOシステムには対応していません。

ディーラーの診断ツールとは異なり、VCDSでは一度使用したPINを何度でも使い続ける
ことができます。

[OK] ボタンをクリックして確定し、**Login** または **Adaptation** 画面に戻ります。

[Cancel] ボタンで作業を中止し、**Login** または **Adaptation** 画面に戻ります。 t

VCDS - Basic Settings (VAG 1551/1552 function 04)



Basic Settings (ベーシックセッティング) はメジャリングブロックと似ています。表示グループもメジャリングブロックと同じですが、ベーシックセッティングではコントロールモジュールが様々な調整を行います。

注意!

この機能を使用する場合には必ずリペアマニュアル等を参照してください。不適切な操作は車を走行不能にしたり部品の損傷を引き起こす原因となります。

[Up]、[Dn]を使って表示グループを選択することができますが、これは誤って意図しないコントロールモジュールをベーシックセッティングモードにしてしまう恐れがあるためなるべく使わないようにしてください。

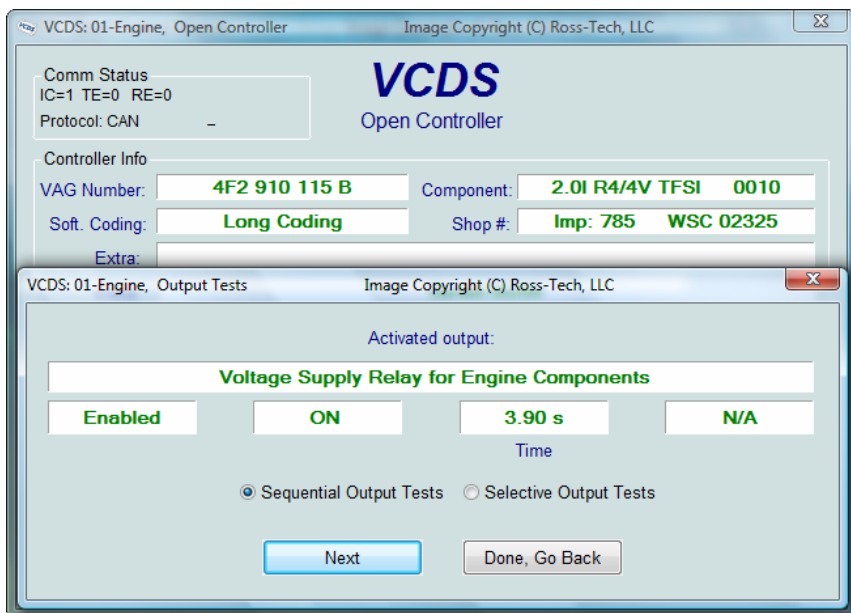
ボックス内にグループナンバーを入力して [Go!] をクリックすると、コントローラーに直接アクセスできます。

[Switch to Meas. Blocks]で Measuring Blocks 画面に戻ります。

[Done, Go Back]で Open Controller 画面に戻ります。

ベーシックセッティング中に [Log] でデータを記録することができます。詳しくは Data Logging (データロギング) の項目をご覧ください。

VCDS - Output Tests (VAG 1551/1552 function 03)



Output Tests (アウトプットテスト) はコントロールモジュールの電気的出力信号(とコントロールモジュールにつながれている様々のパーツとの接続状態)をテストする機能です。KWP-2000 プロトコルの場合にはコントロールモジュールからのデータを同時に表示することもできます。

アウトプットテストを実行するには **[Start/Next]** をクリックしてください。

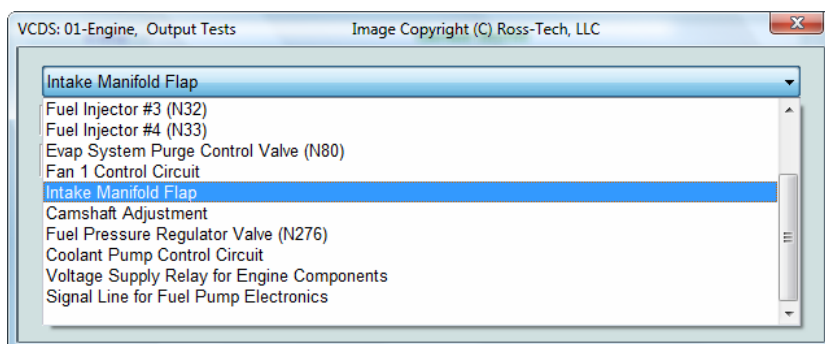
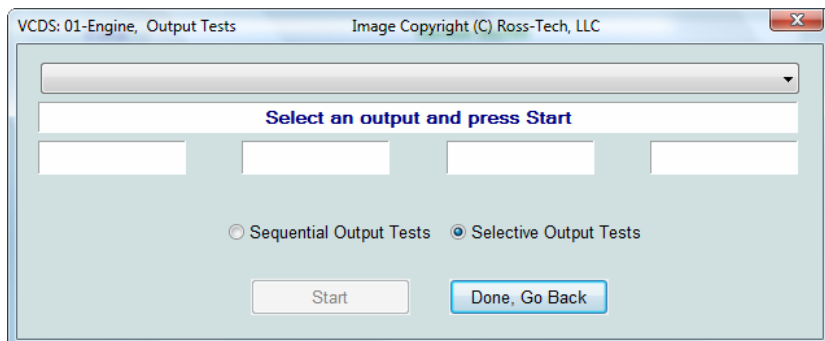
注意: この機能でテストできる出力信号とその一連の手順はコントロールモジュールによって決まっています。診断ツールの能力によるものではありません。どの出力信号がテストできるかについてはリペアマニュアルを参照してください。

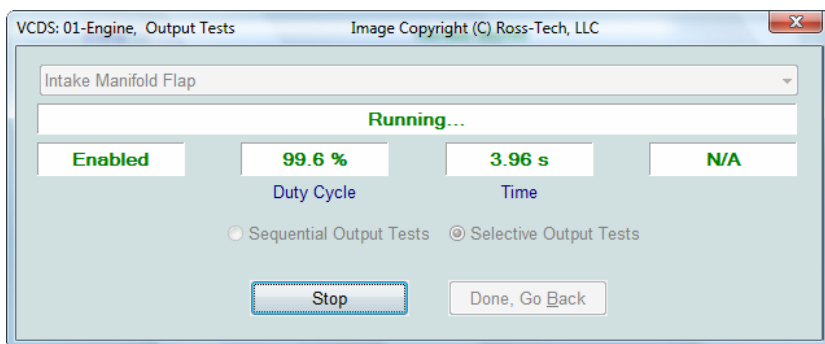
テストが開始された後 **[Done, Go Back]** をクリックすると **Open Controller Function** 画面に戻ります。アウトプットテストは**この場合でも中断されずに行われた状態のままになります。**

アウトプットテストのなかには実行する前に一定の手続きが必要なものがあります。フュエルインジェクターはその一例です。フュエルインジェクターのアウトプットテストを実行するにはアクセルペダルを踏み込まなければなりません。詳細はリペアマニュアルを参照してください。

通常アウトプットテストはエンジンが停止した状態でのみ実行可能となります。

Selective Output Tests (選択式アウトプットテスト) : この機能をサポートするコントロールモジュールで使用可能です。この機能では一つの出力信号だけを選択しテストすることができます。モジュールによってはこのやり方でしかテストできないものもあります。この機能を使うためにはラベルファイルにデータが登録されている必要があります。

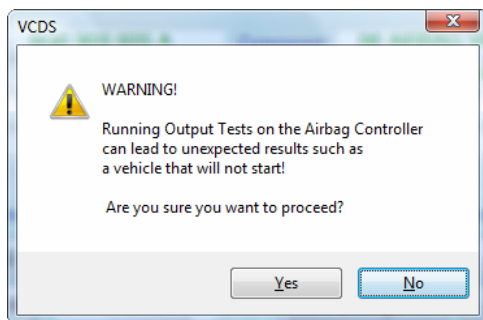




注意：アウトプットテストは車が動いているときには絶対に実行しないでください。ABSシステムのアウトプットテストはブレーキシステムを一時的に機能させなくします。

アウトプットテストは必ずリペアマニュアルなどを参照し、手順を把握したうえで行ってください。

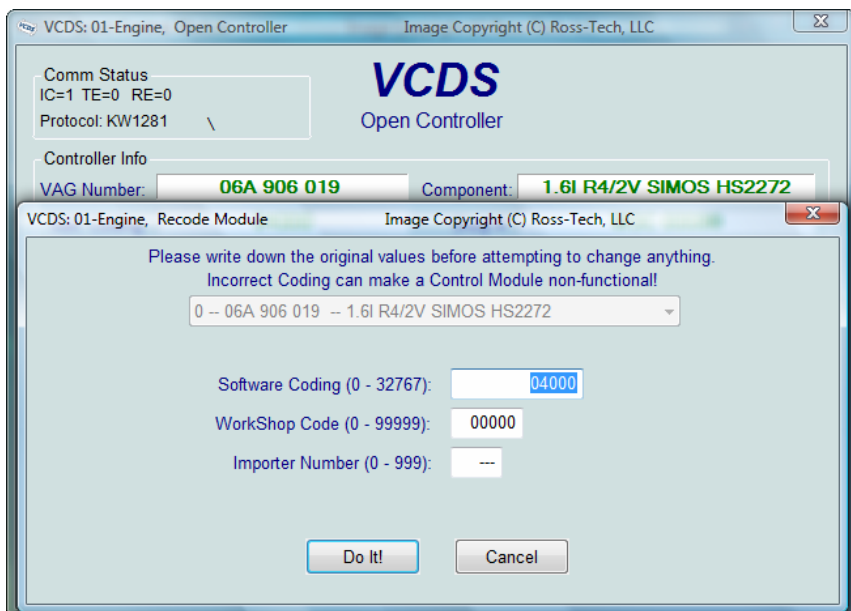
エアバッグコントローラーのアウトプットテストを実行する前には、手続きを続行するかどうかを確認するための次のようなメッセージが現れます。



例えばトゥアレグの場合、エアバッグコントローラーのアウトプットテストをした後に特定の手続きを行わないとエンジンをかけることができないようになっています。

[Done, Go Back]で **Open Controller** 画面に戻ります。

VCDS - Recode or Long Coding (VAG 1551/1552 function 07)



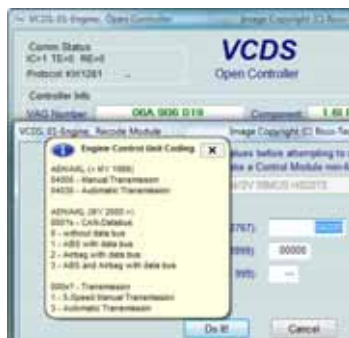
Recode (コーディング) はコントロールモジュールの様々なオプションを選択/設定する場合に行います。

コントロールモジュールによってはコーディングの前にログインの手続きが必要になる場合があります。

注意！

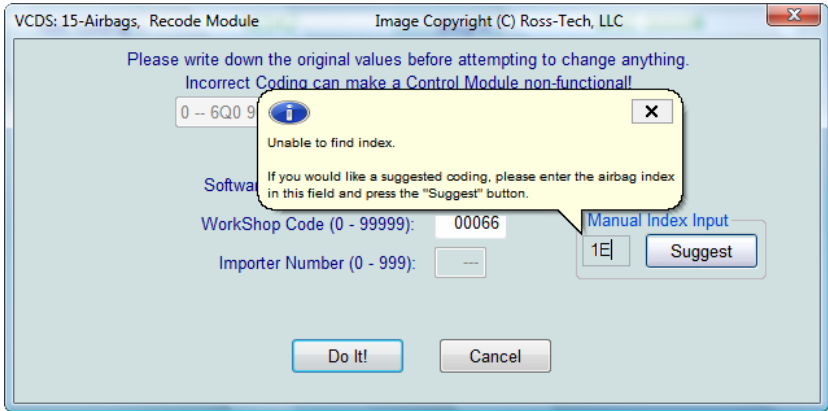
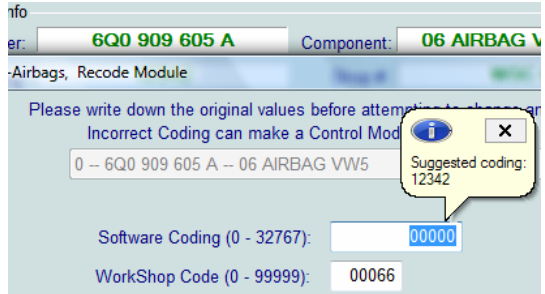
コントロールモジュールのコーディングを変更するときには必ずリペアマニュアル等を参照してください。その場合でも変更前のコーディングナンバーは書きとめておくようにしてください。一度コーディングを変更すると、元の番号は完全に消去されてしまいます。

VCDS はラベルファイルに必要な情報が含まれている場合、コーディングの「一覧」を表示することができます。20 行までのコーディング一覧がデータとしてラベルファイル中に保存できます。このデータは「ふきだし」の形で表示されます。▶



VCDS 独自の機能として Work Shop Code (ワークショップコード)を入力しなくても済むようになっています。Importer Number (インポーターナンバー) は KWP-2000 を使用するコントローラーのコーディングの際だけに必要です。デフォルトの設定では Option 画面で Importer Number を設定しない限り変更されないようになっています。

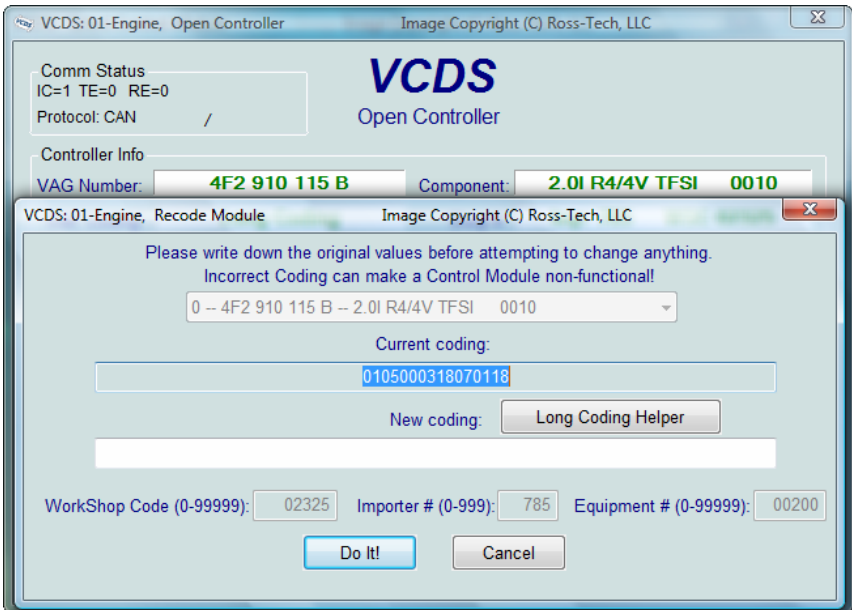
VW 車のエアバッグコントローラーをコーディングする際に VCDS は適切なコーディング番号のヒントを表示することができます。(ただしこれは正確な番号であることを必ずしも保証するものではありません。)入力した番号が適切でない場合、コントローラーは変更を受け付けずコーディングは 00000 のまま変更されません。



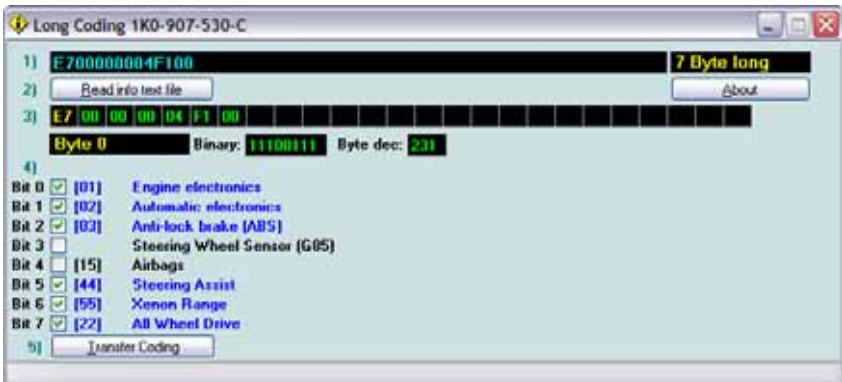
適切なコーディング番号を VCDS が自動的に表示しない場合でも、Manual Index Input のボックスが表示されるときにはボックス内にインデックスナンバー (コントロールモジュールに貼られているステッカーに記載) を入力し **[Suggest]** をクリックすると、コーディング番号のヒントが表示されます。

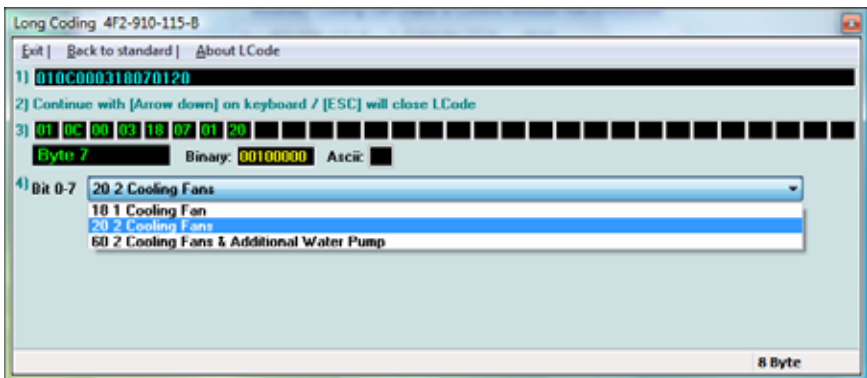
Long Coding (ロングコーディング)

この機能は CAN を採用している最新車種のコントロールモジュールのコーディングを行う際に必要になります。ロングコーディングの場合はコーディング番号が非常に長く複雑なため、入力は「コピー & 貼り付け」で行うこと推奨します。



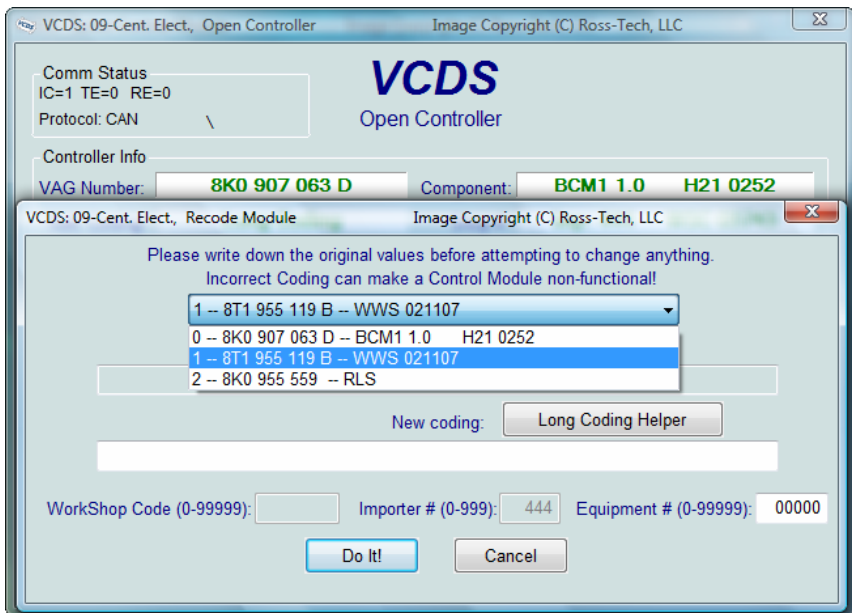
Long Coding Helper (ロングコーディングヘルパー) はアプリケーションソフトの "LCode.exe (VCDS ソフト中に含まれています)" で使用することができます。



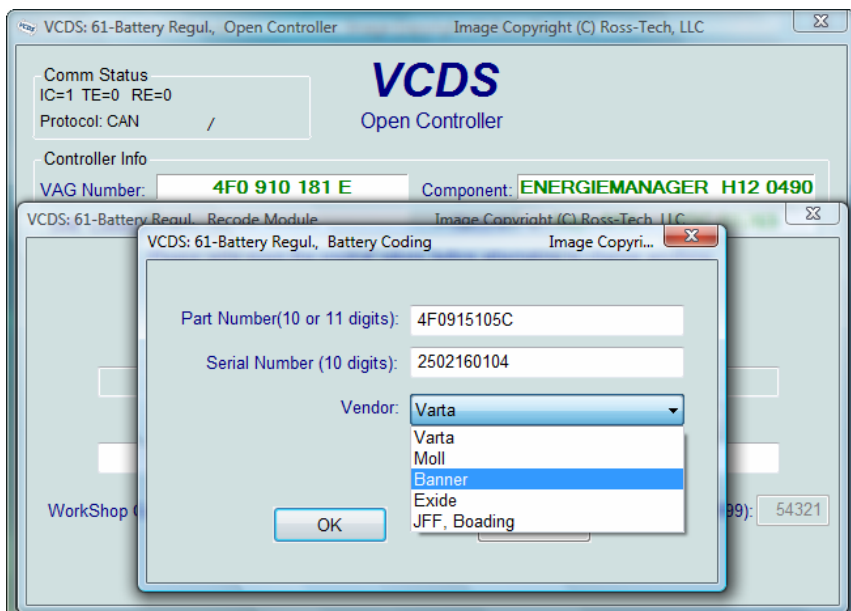


ロングコーディングヘルパーで任意の変更を行った後、[ESC]キーまたはウィンドウの x ボタン、または左上の Exit ボタンをクリックしてアプリケーションを終了すると、自動的に新しいコーディングが VCDS に送られ Coding 画面に戻ります。

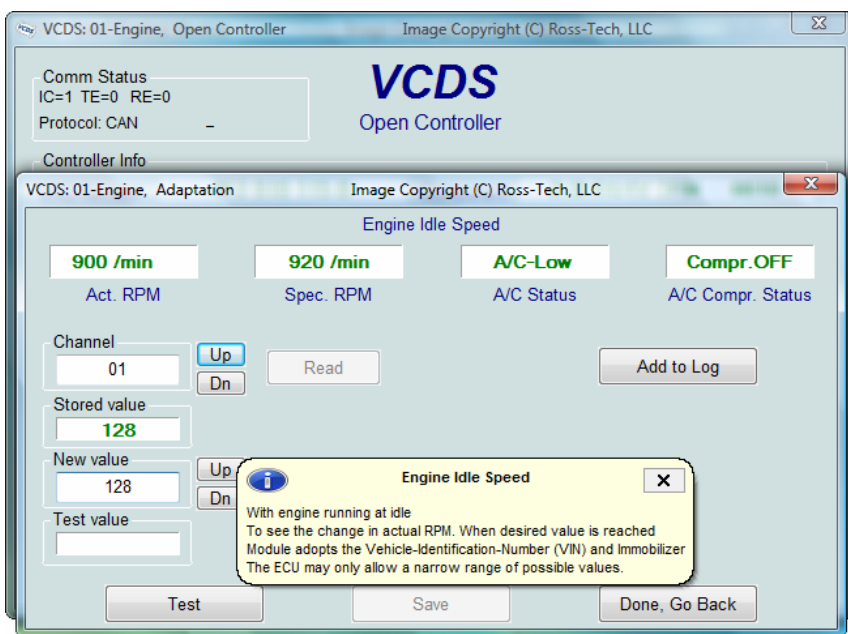
Coding of Slave Modules (スレーブモジュールのコーディング) 最新車種では"slave=従属する" モジュールの多くがコーディング可能です。コーディング画面ではコーディング可能なモジュールの一覧を見ることができます。



Battery Coding Assistant (バッテリーコーディングアシスタント) はコーディング機能の一部で、バッテリー交換の際のコーディングに使用します。これは 61-Battery Regulation モジュール内で行います。



VCDS – Adaptation / Long Adaptation (VAG 1551/1552 function 10)



Adaptation (アダプテーション) 機能はコントロールモジュールの数値やセッティングを変更するときに使います。

注意! アダプテーションを行う際には必ずリペアマニュアル等を参照してください。

Channel Number 横の **[Up]**、**[Dn]** ボタンで使用可能な 99 番までのチャンネルをスクロール表示することができます。またはチャンネルナンバーを直接入力し **[Read]** をクリックします。チャンネルが存在する場合には Stored Value (保存されている数値) が表示されます。該当するチャンネルが存在しない場合は "N/A = 使用不可" が表示されます。画面上の 4 つの表示領域にはコントロールモジュールから送られるデータが表示されます。

目的のチャンネルを表示させた後に New Value 横の **[Up]**、**[Dn]** ボタンで新しく入力する数値を選びます。または数値を直接ボックス内に入力することもできます。数値が決定したら **[Test]** をクリックします。コントローラーは一時的にこの数値に変わります。 (**[Test]** ボタンで設定した数値はコントローラーがオフにされるまでの間保存されます。)

新しい数値で問題がない場合は **[Save]** をクリックして設定を保存します。

[Add to Log] でアダプテーション中のデータを記録することができます。

チャンネル 00 は特別なチャンネルです。チャンネル 00 で **[Save]** をクリックすると全ての数値がデフォルトの設定にリセットされます。この機能をサポートしていないコントローラーもあるので、リペアマニュアルで確認してください。

[Done, Go Back] で Open Controller 画面に戻ります。

VCDS - Security Access Screen (VAG 1551/2 Function 16, KWP-2000 only)

VCDS: 01-Engine, Open Controller Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC

Comm Status
IC=1 TE=0 RE=0
Protocol: CAN /

VCDS

Open Controller

Controller Info

VAG Number: **4F2 910 115 B** Component: **2.0l R4/4V TFSI 0010**

Soft. Coding: **Long Coding** Shop #: **Imp: 785 WSC 02325**

Extra: _____

Extra: **Geraet 00200**

VCDS: 01-Engine, Security Access Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC

Most Controllers only allow one access attempt. If an incorrect access key is entered, you will have to leave the ignition ON for at least ten minutes before trying again. Refer to Service Manual for a valid access key.

Enter security access key (0 - 99999): or

Option:

Security Access (セキュリティアクセス) 機能は KWP-2000 を使用する一部のコントロールモジュールでコーディングやアダプテーション値の変更を行う際に必要になります。有効なログインコードはリペアマニュアルに記載されています。

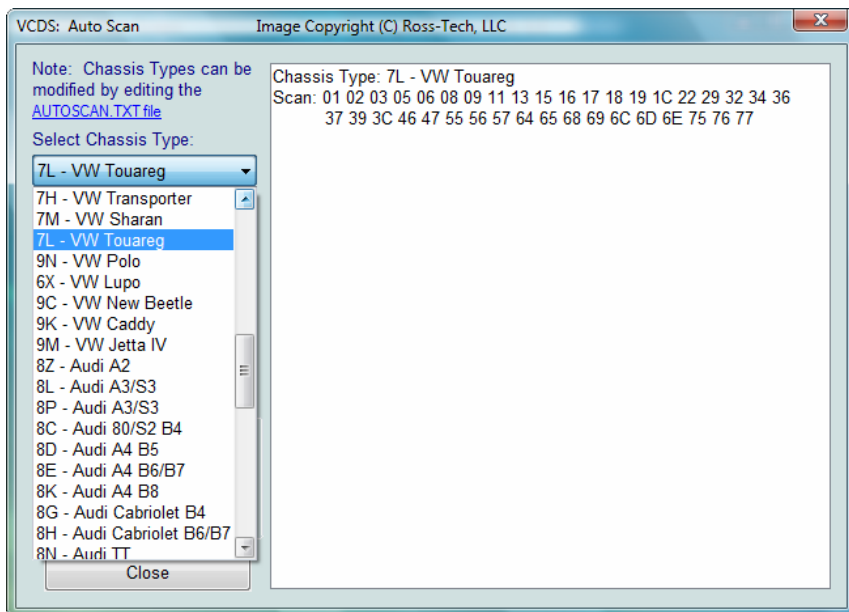
ラベルファイル内にデータが存在する場合にはセキュリティアクセスコード一覧が利用できます。カーソルが Enter security access key の入力ボックス上に重なると「ふきだし」の形で表示されます。

VCDS – Auto Scan (VAG 1551/1552 function 00)

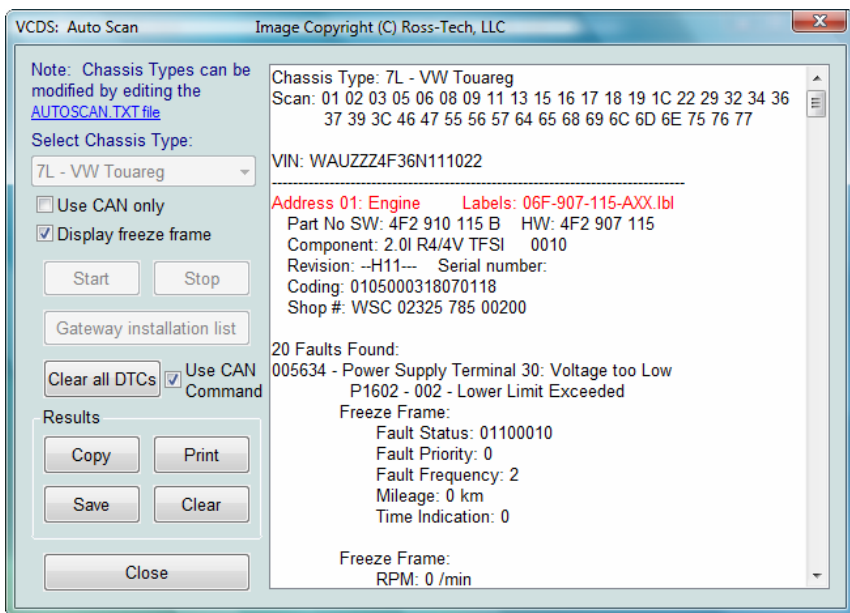
Auto Scan (オートスキャン) 機能は車に搭載されている個々のコントローラー情報 (VAG ナンバー、コンポーネントナンバー、コーディングナンバー、ワークショップコード、フォルトコード) を表示することができます。

まず **Select Chassis Type** でシャーシタイプを選びます。

CAN 対応車種の場合は **Auto Detect** を選択することができます。これは通常のオートスキャンよりも短時間でコントローラーをスキャンすることができます。



VCDS ディレクトリ内には AUTOSCAN.TXT という名前のファイルがあります。この中にそれぞれの車種のコントローラーのアドレス情報が含まれています。Chassis type selection のリンクをクリックするとこのファイルが開き、それを編集して自分の車用のデータを付け加えることができます。自分の車にどのコントロールモジュールが搭載されているかは Control Module Finder 機能で調べることができます。



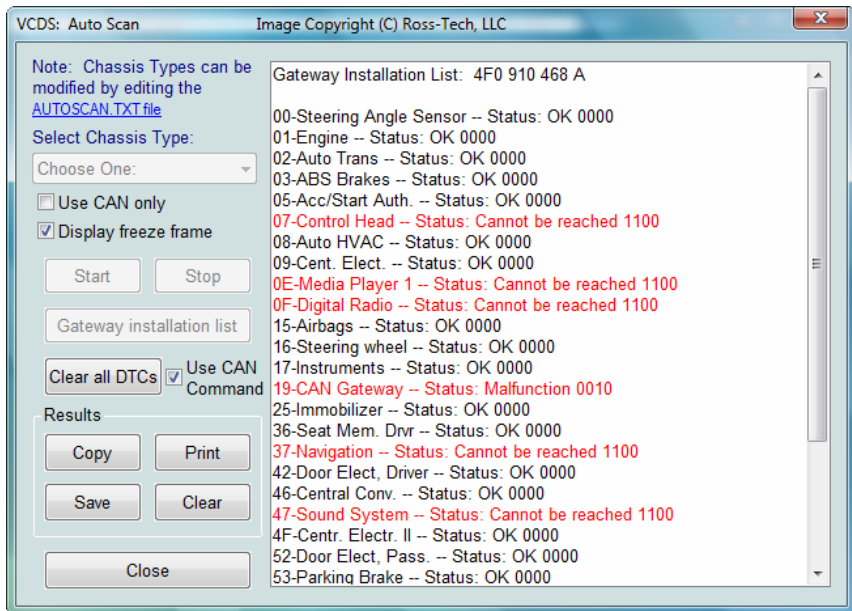
Display Freeze Frame Data にチェックを入れるとフォルトコードのフリーズフレームデータを KWP-2000 プロトコルによって付け加えることができます。注：現在のところフリーズフレームデータを呼び出せるのはごく一部のモデルだけです。

[Start] でオートスキャンを開始します。オートスキャンが終了するまでには数分かかります。スキャン中、それぞれのコントローラーの Open Controller 画面と Fault Code 画面が切り替わって表示されていきます。全てのコントローラーのスキャンが終了すると Auto Scan 画面に戻ります。ハードウェアとソフトウェアで異なるパーツナンバーを持つコントローラーでは HW、SW それぞれのパーツナンバーが表示されます。**赤字** で表示されたコントロールモジュールの名前をダブルクリックすると Fault Codes 画面が開きフォルトコードを消去することができます。

[Stop] をクリックするとオートスキャンを中止します。

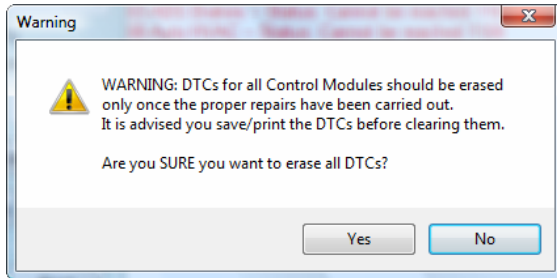
[Gateway Installation List]

CAN 対応車種でのみ使用可能です。これを使用すると約 3 秒という高速で車に搭載されている全てのコントロールモジュールとその状態 (Status) の一覧を表示することができます。フォルトコードが出ているモジュールは "Malfunction (不具合)" と表示されます。



[Clear All DTC's]

オートスキャンで表示した全てのフォルトコードを消去する機能です。CAN-Bus 以前の車では、個々のコントローラーにアクセスし個別にフォルトコードを消去していきます。Can-Bus 対応車種ではコントローラーにアクセスせずに一括して全てのフォルトコードを消去します。



Results :

[Copy]

オートスキャン画面を閉じるとオートスキャンの結果のデータは全て消去されます。記録を残したい場合には**[Copy]**ボタンを先にクリックしておき、結果を他のアプリケーションソフトに貼り付けておくようにしてください。

[Print]

オートスキャンの結果をプリンターに出力します。

[Save]

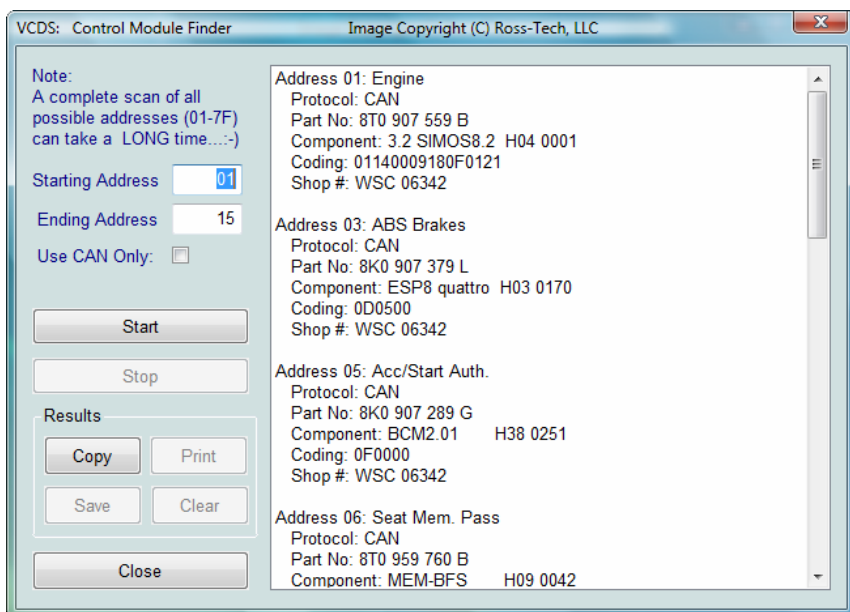
オートスキャンの結果を VCDS\Logs ディレクトリに保存します。

[Clear]

オートスキャンの結果を消去します。これによってフォルトコードは消去されません。

[Close]をクリックすると **Main Screen** に戻ります。

VCDS - Control Module Finder



この機能は全てのアドレスをスキャンして車に搭載されている全てのコントローラーの情報を表示します。表示されるデータはアドレス、プロトコル、コントローラーのVAGナンバー、コンポーネントナンバー、ソフトウェアコーディングナンバー、ワークショップコードです。

Use CAN Only にチェックを入れると K-line のスキャンは除外します。

[Start] でスキャンを開始します。

[Stop] で作業を中止します。

Results :

[Copy]

画面を閉じるとスキャンの結果のデータは全て消去されます。記録を残したい場合にはこのボタン保存しておくようにしてください。

[Print]

結果をプリンターに出力します。

[Save]

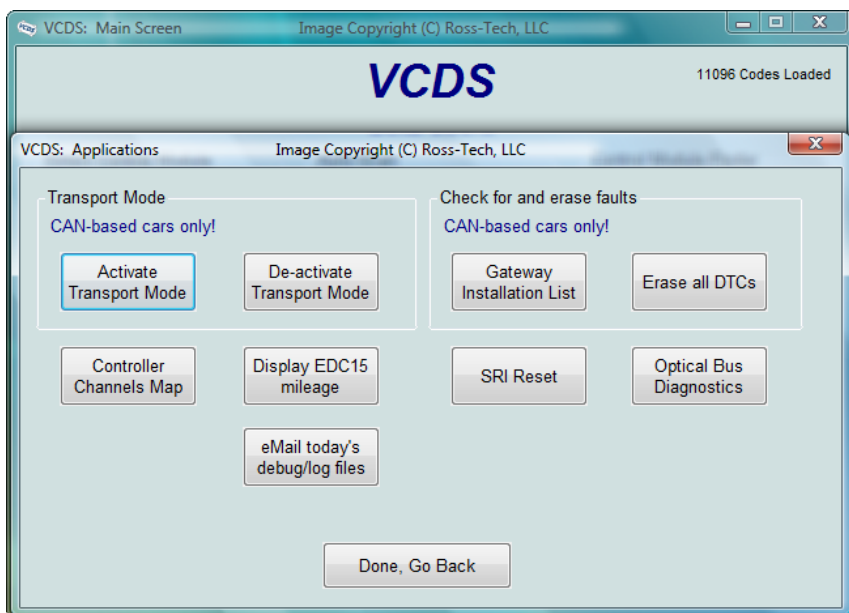
結果を VCDS\Log ディレクトリに保存します。

[Clear]

結果を消去します。

[Close] をクリックすると **Main Screen** に戻ります。

VCDS - Applications



Transport Mode (トランスポートモード)

CAN 対応車種にはトランスポートモード機能が採用されています。これはディーラーなどで長期間車を使用しないときなど、バッテリーの低下を防止するために車を「冬眠」の状態にする機能です。

[Activate Transport Mode]をクリックすると必要最低限のシステム以外の機能が停止し、トランスポートモードに入ります。

[De-activate Transport Mode]をクリックすると車はトランスポートモードから通常の状態に戻ります。

Audi A7 (B7) の場合、トランスポートモードを解除する手順は異なります。

[Select]
[17 Instruments]
[Adaptation - 10]
チャンネル 99 を表示させ
New Value に 0 を入力します
[Test]
[Save]

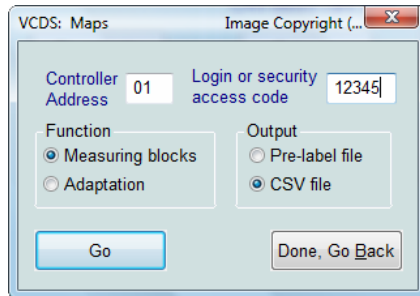
Check for and erase faults (フォルトチェックと消去)

[Gateway Installation List]

CAN を採用している車種のみで使用できます。通信速度が非常に速いため、この機能を使うと 3 秒ほどで全コントローラーの特定とその状態 (Status) を調べることができます。詳しくは「オートスキャンの方法」を参照してください。

[Erase All DTC's]

それぞれのコントローラーにアクセスせずにフォルトコードを消去できます。



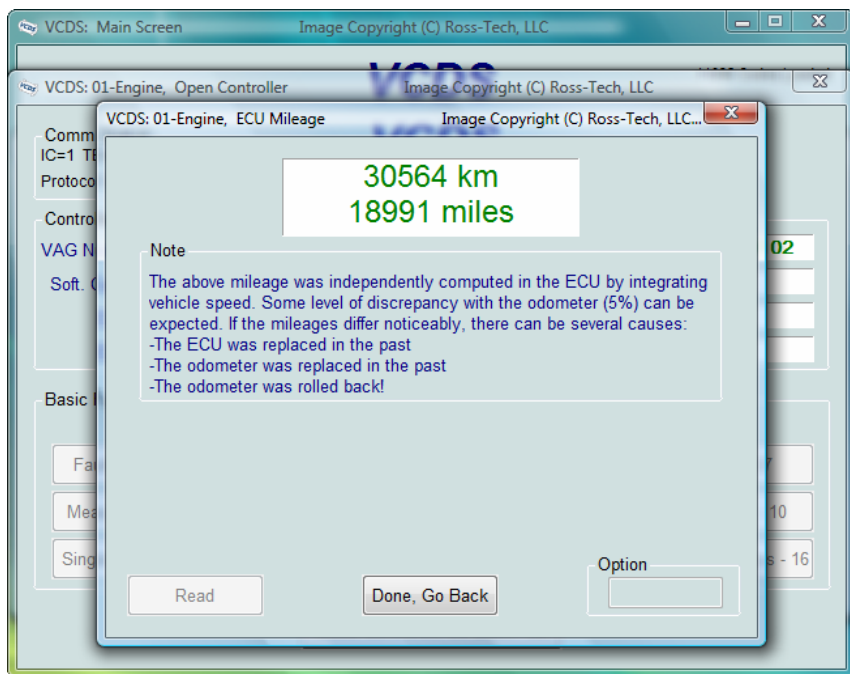
[Controller Channels Map] ECU 内の最大 255 のメジャリングブロックグループとアダプテーションチャンネルをスキャンし、“マップ” を作成します。これは CSV または PLB ("Prototype Label, Blocks") ファイル形式で保存されます。

Controller Address (エンジンコントローラーの場合は 01、など) を選び、Login or security access code (ログインまたはセキュリティコード) を入力し、メジャリングブロックまたはアダプテーションを選びます。

[Go] をクリックすると スキャンが始まり、その結果が自動的に C:\Ross-Tech\VCDS\Logs などに保存されます。

[Done, Go Back] で Applications 画面に戻ります。

EDC-15 Mileage checker

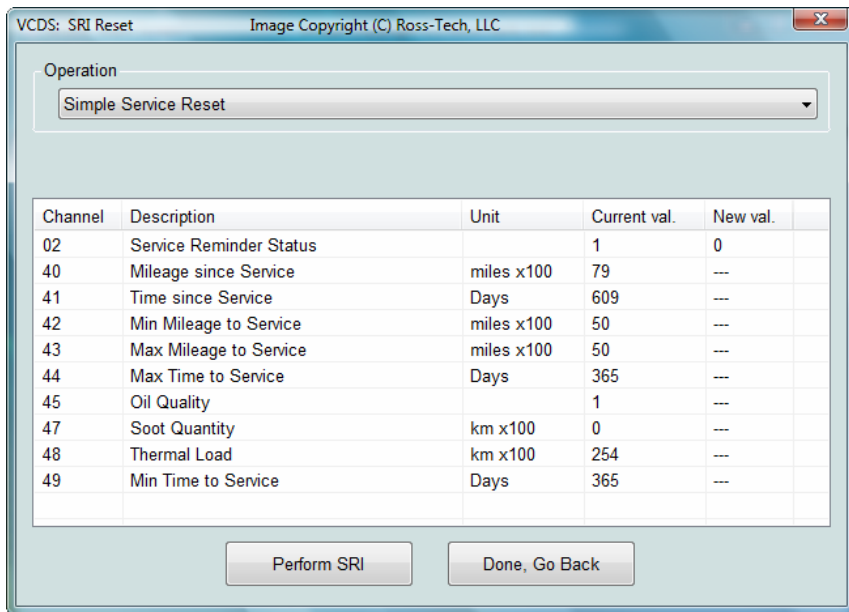


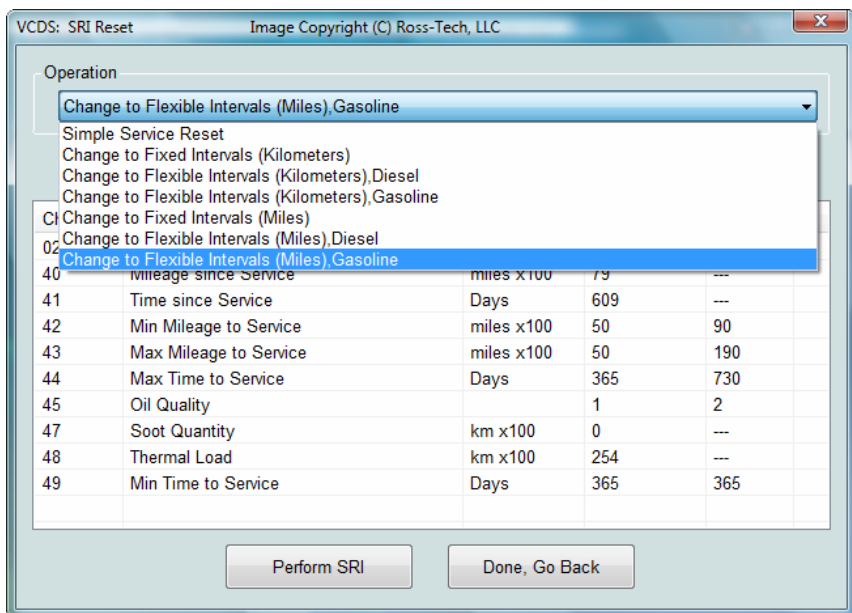
[EDC-15 Mileage] 2000 年以降の一部の ECU では走行距離をチェックすることができます。

[Done, Go Back] で Applications 画面に戻ります。

SRI Reset (サービスリマインダーのリセット)

[SRI Reset]はこの機能が備わっている車両のサービスリマインダーをリセットする機能です。VCDSは自動的に Instrument Cluster (インストゥルメントクラスター) にアクセスし、ラベルファイルを参照して SRI の情報と、現在インストゥルメント内に保存されているデータを取得します。新しい数値はキーボードで入力するか、リストボックス内から選択します。





[Perform SRI] をクリックすると、入力した数値が保存されます。

注意: この機能は対応するラベルファイルがない場合には使用できません。

[Done, Go Back] で **Applications** 画面に戻ります。

Options Screen

VCDS: Program Options Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC

VCDS Program Options

Port and Protocol Options | User Interface and Identification

Select Port

COM1 COM2 USB
 COM3 COM4

Test LEDs

Protocol options

Start Baud	KW2 Delay	TST Addr.	Debug Level
0	30	-1	0
Blk Int	Char Int	KP2 Time	CAN Timeout
55	9	25	0

Init parameters

Bypass OBD-II Fastinit Bypass CAN Init
 Force K on engine Force Dumb Mode

Reduce CPU Usage

KWP-1281 KWP-2000

Restore Defaults

Save Apply Cancel

Options 画面では VCDS の初期設定、その他の設定を行います。

VCDS: Program Options Image Copyright (C) Ross-Tech, LLC

VCDS Program Options

Port and Protocol Options | User Interface and Identification

Workshop Identification

Shop Name
Ross-Tech, LLC

Code(WSC) VZ/Importer Equipment number
03743 444 00001

Check for free updates

Releases and Betas

Check for updates now

User Interface

Disable Sounds
 256 Color Mode for old PCs

Left Printing Margin: 4

Window size: 10

Save Apply Cancel

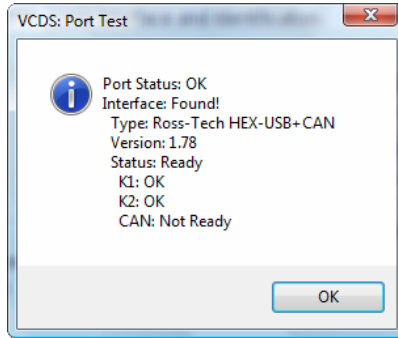
Options 画面はタブによって 2 種類の内容が選べます。

Port and Protocol Options (ポートとプロトコル)

Select COM Port

インターフェースを PC に接続するポートを選びます。

次に[Test]をクリックし PC がインターフェースを認識しているかどうか確認します。詳しくは Getting Started の項目をご覧ください。



[LED's]ボタンをクリックするとインターフェースの LED を点滅させポートからの出力状態を確認することができます。

Protocol Options

- **Start Baud** は VAG-COM がコントローラーに接続したとき最初に使うボーレートです。VCDS は適切なボーレートを検知するシステムになっているため、デフォルトの設定では 0 のままです。現在のインターフェースではこれは変更できないようになっています。
- **KW2 Delay** は PC と車とのセッションの初期化にかかる時間です。デフォルトの設定では 30 になっています。基本的にこの数値は変更しないでください。
- **TST Addr.** は KWP-2000 が使用するパケットアドレスに関する数値です。デフォルトの設定では -1 です。基本的にこの数値は変更しないでください。
- **Debug Level** は VCDS が記録するデバッグの回数を設定します。特に問題がない場合はこの数値は 0 のままにしてください。
- **Blk Int** はプロトコルタイミングに影響を与えます。を設定します。デフォルトの設定では 55 です。メジャリングブロックでサンプリングレートを高めたい場合などにはこの数値を 25 に変更してください。ただしこの場合には一部のコントローラーとの通信状態が不安定になる可能性があります。
- **Char Int** もプロトコルタイミングに影響を与えます。デフォルトの設定では 1 です。メジャリングブロックでサンプリングレートを高めたい場合などにはこの数値を 0 に変更してください。ただしこの場合には一部のコントローラーとの通信状態が不安定になる可能性があります。

- **KP2 Time** は KWP-2000 プロトコルを使用するコントローラーのみに関係します。デフォルトの設定は 25 です。この数値を低く設定するとメジャリングブロックでサンプリングレートを高めることができます。
- **CAN Timeout** はコントロールモジュールからの信号の待ち時間を設定します。特に問題がない場合はこの数値は 0 のままにしてください。

Init Parameters

- **Bypass OBD-II Fastinit** は Generic OBD- を使用する車に接続困難な場合にのみチェックを入れてください。
- **Force K on Engine** は CAN-Bus 対応車種に用います。K-line と CAN-bus 両方をサポートするコントロールモジュールでは、データロギングの際に K-line を使用することによってサンプリングレートが高まります。ここにチェックを入れると K-line を使ってデータロギングすることができます。全てのモジュールが K-line に対応しているわけではないため、通常ここにはチェックが入っていません。
- **Bypass CAN Init** は VCDSM が CAN-Bus をバイパスさせたい場合にチェックを入れます。
- **Force Dumb Mode** にチェックを入れるとポーレートの自動設定が OFF になります。

Reduce CPU Usage は VCDS と同時に使用中の他のアプリケーションソフトの反応性を高めます。ただしサンプリングレートが低くなります。

- **KWP-1281**: デフォルトの設定ではチェックは入っていません。チェックを入れると KWP-1281 を使用するコントローラーに接続したときに CPU の負担を軽くできます。これを使用すると一部のコントローラーとの通信状態が不安定になる場合があります。
- **KWP-2000**: デフォルトの設定ではチェックは入っていません。チェックを入れると KWP-2000 を使用するコントローラーに接続したときに CPU の負担を軽くできます。

[Restore Defaults]は全てのプロトコル設定 (ワークショップコードとインポーターナンバーを除く) をデフォルトの設定に戻します。

Workshop Identification

- **Shop Name (ショップネーム)** はフォルトコードの結果などに表示されます。
- **WorkShop Code (ワークショップコード)** はそれぞれのディーラーに割り当てられた番号です。デフォルトの設定では 00000 になっています。

注意：ディーラーでない限り、ワークショップコードは 00000 のままで問題ありません。この状態ではスキャンした後もワークショップコードはコントローラーに残りません。

- **VZ/Importer (インポーター) ナンバー** はデフォルトの設定では 000 になっています。

注意：ディーラーでない限り、インポーターナンバーは 000 のままで問題ありません。この状態ではスキャンした後もワークショップコードはコントローラーに残りません。

- **Equipment Number (イクイップメントナンバー)**は新しいコントロールモジュールをコーディングする際に必要になることがあります。この場合にはどんな番号を入力しても問題ありません。デフォルトの設定ではこの番号は 00000 になっています。

User Interface

- **Disable Sounds** にチェックを入れると、VCDS の動作音（オートスキャン終了のアラームなど）を消音することができます。
- **256 Color Mode for old PC's** VCDS 画面の背景を青から白へ変更できます。変更は一度 VCDS を終了して再起動させた後に有効になります。
- **Left Margin Printing** 印刷の際の左側の空白スペースの幅を変更できます。
- **Window Size** VCDS 画面のサイズを変更できます。変更は **[Save]** で設定を保存し VCDS を再起動した後に有効となります。

Check for Free updates

PC がインターネットに接続している場合、VCDS はソフト起動時に自動的にアップデートの有無を調べ、アップデートがある場合にはそれを通知します。

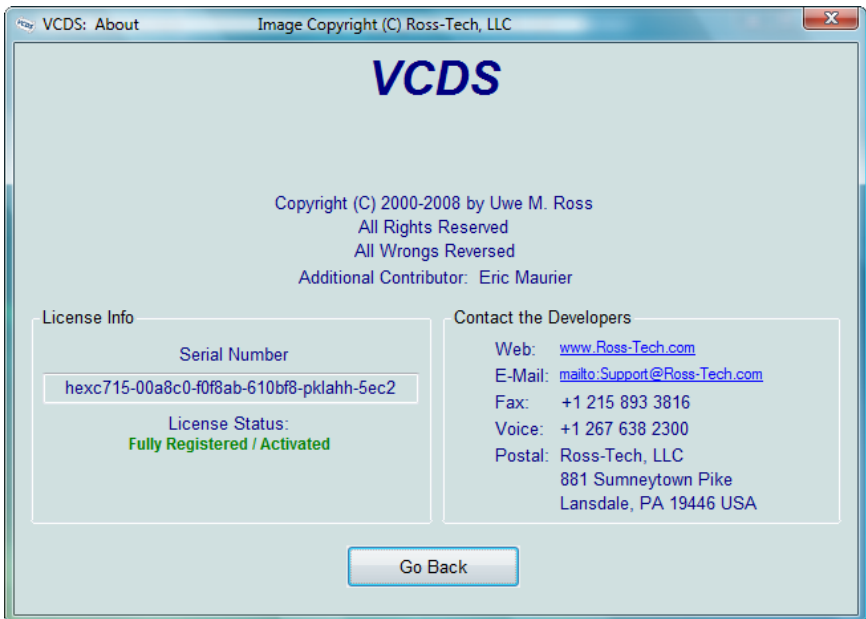
リストボックスから自動アップデートの設定ができます。また、**[Check for updates now]** でその場でアップデートのチェックを開始することもできます。

[Save] で現在の設定を保存します。

[Apply] で現在の設定を保存せずに適用します。

[Cancel] で設定を変更せずに **Main Screen** に戻ります。

VCDS - About Screen



License Info

- **Serial Number** (シリアルナンバー) はインターフェースをつなぎ、VCDS を使用するまでは “Please test on car before registering” の表示になっています。VCDS を一度使用するとインターフェースのシリアルナンバーが表示されるようになります。
- **License Status** は特に問題がない場合 “Fully Registered / Activated” の表示になります。

Main Screen に戻るには[Go Back]をクリックしてください。